令和６年（2024 年）12 月紀北町議会定例会会議録

第 3 号

招集年月日　令和６年12月10日（火）

招集の場所　紀北町本庁舎議会議場

開　　会　令和６年12月18日（水）

出 席 議 員

１番	脇　　昭 博	２番	宮 地　　忍
３番	岡 村 哲 雄	４番	大 西 瑞 香
５番	原　　隆 伸	７番	奥 村　　仁
８番	樋 口 泰 生	９番	太 田 哲 生
10番	瀧 本　　攻	11番	近 澤 チヅル
12番	入 江 康 仁	13番	家 崎 仁 行
14番	平 野 隆 久		

欠 席 議 員

６番　東　　篤 布

地方自治法第121条の規定により説明の為議会に出席した者の職氏名

町長	尾上壽一	副町長	中場幹
会計管理者	宮本忠宜	総務課長	水谷法夫
財政課長	上ノ坊健二	危機管理課長	家倉義光
企画課長	上村毅	税務課長	直江憲樹
住民課長	世古基樹	福祉保健課長	直江和哉
老人ホーム赤羽寮長	東雅人	環境管理課長	垣内洋人
農林水産課長	高芝健司	商工観光課長	岩見建志
建設課長	井土誠	水道課長	宮原優
海山総合支所長	玉本真也	教育長	中井克佳
学校教育課長	直江仁	生涯学習課長	長井裕悟

職務の為出席者

議会事務局長	上野隆志	書記	鶴田博樹
書記	源口晴子	書記	佐々木猛

提出議案　別紙のとおり

会議録署名議員

２番　宮地忍　　３番　岡村哲雄

議事の顛末　次のとおり記載する。

（午前　９時　30分）

入江康仁議長

皆さん、おはようございます。

それでは、定刻になりましたので、これより本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員は13名であり、定足数に達しております。

なお、６番　東篤布議員から所用のため欠席との連絡を受けておりますので、ご報告申し上げます。

入江康仁議長

本日の日程については、お手元に配付いたしました議事日程表のとおりであります。

なお、朗読は省略させていただきますので、ご了承ください。

入江康仁議長

それでは、日程に従い議事に入ります。

日程第１

入江康仁議長

日程第１　会議録署名議員の指名を行います。

会議規則第126条の規定により、本日の会議録署名議員に、

２番　　宮地　忍議員

３番　　岡村哲雄議員

のご両名を指名いたします。よろしくお願いします。

日程第２

入江康仁議長

次に、日程第２　一般質問を行います。

本日の質問者は３人といたします。

運営については、議員の発言の持ち時間は30分以内とし、持ち時間の残りを残時間表示用のディスプレー画面で質問者に対し周知することにいたします。

質問の方法については、会議規則第50条ただし書きにより、議員の質問は全て質問席から行うことを許可いたします。

最初に通告した全ての事項について質問することも可能でありますし、通告した事項について１項目ずつ質問することも可能であります。

町長等による反問については、会議規則第51条の２の規定により認めることとし、反問に対する答弁の時間は議員の持ち時間に含めないことといたします。

また、一般質問は通告制でありますので、通告の内容に基づいて行っていただき、要望やお願い、お礼の言葉を述べないよう十分注意をしていただきますようお願いいたします。

なお、事前に質問の相手を通告してありますが、一般質問の調整も行われていることと思いますので、基本的には町長から答弁をしていただき、数字的なことや事務の執行状況など、担当課長等の答弁は最小限にとどめていただき、議事の運営にご協力をくださいますようお願いいたします。

それでは、７番　奥村仁議員の発言を許します。

７番　奥村仁議員。

７番　奥村仁議員

７番　奥村仁、議長の許可をいただきましたので、令和６年12月議会における一般質問をいたします。

あと３日で55歳になるんですけれども、近年は１か月過ぎるのが物すごく早く感じています。同時に、１年があっという間であり、議員の任期である１期４年についても、日々の議

員活動に追われ、初当選の思いなど、手につかずのまま４年が過ぎていくことも多々あることも常々反省しながら、あっという間に14年がたってしまいました。

14年前、40歳で初当選させていただいたときに、この紀北町は、将来一体どのように議論され、進められているのだろうか。人任せにしておいて、決められた政策に、ただ、ただ文句を垂れているだけでよいのか。一般町民として小声で愚痴を言うくらいなら、その議論の場に出て、自分たちの町の将来について、その土俵に上がり、議論したいとの思いで議会の場に出させていただく決意をしたことを思い出すところです。

初当選初年度、あの東日本大震災が発生いたしました。紀北町の将来についての議論の場というものは、一気に災害対策にシフトしていき、地元の津波被害対策である堤防の改修事業や頓挫していた県道バイパス工事を早急に完成させることや、避難路整備などに注力しながらの活動が主になった14年を振り返ると、やはり初心に返り、現在進められている町政の事業が我々の将来にとって、また、次の時代にバトンを渡す施策として、本当に間違っていないのかなど、改めて取組の姿勢を見直すべきではないかと感じるところでもあります。

昨日、一般質問で言われておりました、できなかったのではない、やらなかったのですという話を聞き、私も、やらなかったとならないよう頑張らないとなと思っております。

今回通告した質問は、その１つでもある当町のごみ処理施策についてであります。

現在、紀北町を含める東紀州５市町により、東紀州環境施設組合を設立し、紀北町のごみ処理に対して将来的に尾鷲市に建設する広域ごみ処理施設で行うよう進められていますが、今回、改めてその施設が将来の紀北町にとって得策であるのかという点で質問していきたいと思います。

まずは、当町におけるじんかい処理費の推移について質問いたします。

当町では、海山リサイクルセンターと紀伊長島リサイクルセンターの２施設が稼働しており、可燃ごみにてＲＤＦを製造するという施策を採用しております。現在は製造されたＲＤＦを２施設に運搬し、有料にて処分しております。

先日の教育民生常任委員会での答弁でもあったように、年間5,300ｔの可燃ごみから約3,000ｔのＲＤＦを製造しているのが現状です。リサイクルセンター２施設のランニングコストは、毎年約４億円ほどかかっており、その年により大きな修繕が必要となることがあるのが現状ということだと思いますが、改めて、じんかい処理費の状況について説明と答弁を求めます。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

皆さん、おはようございます。

今、奥村議員からのご質問をいただきました。議員も40歳で初当選ということでございますね。長きにわたりご苦労さまです。私も40のときに初当選だったので、それをちょっと今、思い起こしたところでございます。

そういう中で、今、ごみ処理についていろいろとご質問をいただきました。紀北町では、現在、海山リサイクルセンターと紀伊長島リサイクルセンターの２か所で可燃ごみを処理しております。施設の老朽化が進んでいることに加えまして、昨今の物価高騰の影響もございまして、光熱水費、修繕費など、様々な費用が増加している状態でございます。

今後も運営費用は増加していくことが見込まれますが、施設の安定稼働を図りつつ、できる限りの費用抑制に努めていかなければいけないと考えております。

なお、ごみの推移等については、担当課長から答弁いたさせます。

入江康仁議長

垣内環境管理課長。

垣内洋人環境管理課長

それでは、ごみ処理費用の経費の推移のほうをご説明させていただきます。

リサイクルセンターの管理事業としてＲＤＦをつくる事業なんですが、令和２年度が約４億5,000万円、令和３年度が４億4,000万円、令和４年度が４億7,000万円、令和５年度は４億4,000万円というふうに、約４億円から４億円5,000万円ほどで推移しておりますが、施設の緊急修繕といった状況により前後するものでございます。

今後も価格抑制には、費用の抑制には努めていきたいと考えております。

以上です。

入江康仁議長

奥村議員。

７番　奥村仁議員

今、推移の答弁いただいたんですけれども、およそ４億円前後で推移して、大きな修繕ができてきたときに４億5,000万円ほどかかっているというのが現状で、町長の答弁では、今後も増加していく可能性というような答弁だったと思うんですけれども、ごみの量に応じて、その費用というのも変わってくるのかなというところで、次の中に入っていきたいと思いま

す。

次に、当町のごみ処理の状況、現状についてと、ごみ量の削減として、令和７年１月から取り組む資源ごみの分別内容と、また、私が懸念している現在の草や木の処理方法の改革についてを質問いたします。

当町の人口は、現在１万4,129人、15年後についてはデータで見ると約8,500人になるという予想であります。およそ４割減となるところでありますが、60歳までの人口については約2,700人ぐらいとの予想になっております。現在の60歳までの人口は約6,700人であることから予測して、実に６割減となる予想であります。

ごみ量は、その減の予想からすると激減するというふうに予想されますが、また、現在の紀北町における可燃ごみの処理量については、先ほども言ったように年間5,300ｔであり、単純計算だと15年後の人口で換算すると、年間ごみ収集量は1,590ｔとなると思っております。これは、60歳までの人口が、ごみ排出量が多いと見たときの数字であります。１日の処理量は、人口割だけで予想すれば約５ｔぐらいと算出されるわけですが、また、これには家庭から出る草や木が含まれており、現在の5,300ｔというのももっと削減できる数字であるのではないかと考えます。

以前は、畑などで焼却していたものも野焼き禁止というだけのあいまいな広報のおかげで、ほぼ可燃ごみとして通常ごみステーションに出され、パッカー車にて収集され、リサイクルセンターに搬入されています。可燃ごみの削減は、こうした草や木を分別し、別処理することで将来の見込みの５ｔ以下となるのではないかというふうに、数字からもかなりの削減が見込まれるものだと考えます。

当町の可燃ごみの処理状況と将来のごみ処理量の予想について、来年から取り入れる資源プラスチックごみの分別内容、そして、近年のごみ量の推移とともに答弁をいただき、野焼きについての正しい考え方や、そして、提案でもある草や木の分別回収などについて答弁いただきたいと思います。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

お答えします。

現在の当町の可燃ごみにつきましては、全て両リサイクルセンターで処理しております。処理量につきましては、令和２年度は年間5,800ｔで、令和５年度は年間約5,300ｔと、徐々

に減少しておりますが、令和15年度の推計値でも約4,800ｔとなっており、ごみ減量の推進は重要な課題だと捉えているところでございます。

ごみの減量をしていくためには、町民と行政が一体となって、よく言われる４Ｒ、リユース・リデュース・リサイクル・リフューズの意識向上を心がけていただくことが大事だと考えているところでございます。

行政といたしましても、来年の１月からは軟質プラスチックの分別収集を試験導入するほか、今年の11月にはペットボトルの水平リサイクル協定を締結するなど、ごみから資源化への対策を推進するとともに、町民の皆様への周知徹底などに努め、ごみ減量対策を一層推進していきたいと考えております。

なお、リサイクルセンターに搬入される草木などは、年間100ｔほどになると考えられます。それらにつきましては、町としても近いうちに可燃ごみとは別に分別し、資源として活用できないかということを今、検討しているところでございます。

環境省が公募する第５回脱炭素先行地域にも選定されておりますので、６町連携でのバイオマス発電事業等も踏まえ、考えていきたいと思っております。

また、野焼きにつきましては、法律のほうで禁止されているものでございまして、一部の宗教行事や農作業等の場合は、消防への届出をすれば可能となりますが、町民の皆様に分かりやすく周知を図っていく必要があると考えております。

なお、野焼きの禁止、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第16条の２、焼却の禁止で禁止されておりまして、違反した場合は、５年以下の懲役または1,000万円以下の罰金となっております。

入江康仁議長

奥村議員。

７番　奥村仁議員

答弁いただいたところなんですけれども、この資源プラスチックごみに関して、ペットボトルの回収方法等が１月から行われるというところで、この場を借りて、課長のほうからどういうふうなやり方で出される、分別しなければならないのかという部分があるのなら答弁いただきたいと思います。

入江康仁議長

垣内環境管理課長。

垣内洋人環境管理課長

１月から始まります資源プラスチックの分別収集について簡単にご説明させていただきます。

今回の分別収集につきましては、これまで可燃ごみとして収集していたものから、対象となる一部のものを資源プラスチックとして新たに収集を行うものです。資源プラスチックの対象外となるものは、これまでどおり可燃ごみとして捨てていただくことになるんですが、対象となりますのは、軟質プラスチック、主にプラスチック製容器包装品となります。具体的には、レジ袋であったり、おかしの袋、お弁当の容器、ペットボトルのキャップ、ラベルといったものになりまして、ただ、おかしの袋等で汚れが落ちないものとか金属を含む飲み薬の容器とか、あと、硬質プラスチック製品というのは、今回の分別の対象外となります。

簡単に町民の皆様に見分けていただけるポイントとしましては、はさみで切れる程度の柔らかいプラスチック、あと、汚れていないものというものを意識して、すぐには無理だとは思うんですけれども、徐々に浸透していって分別を徹底できればなというふうに考えております。

回収後は、100％リサイクルとして物流パレット等になって再利用される予定でございます。

以上です。

入江康仁議長

奥村議員。

７番　奥村仁議員

この資源ごみの分別回収については、町のホームページがさんあーるのアプリで住民は見ることができると思うんですけれども、今現在は載っていない状態なので、１月から始まるよということであれば、住民がちょっとね、結構難しいと思うんですよ、これ。なので、なるべく分かりやすいような何か分別方法、動画等とかで載せていくと、まだ理解しやすいかなというふうにも思いますので、また、そこら辺もやっていただければと思います。

草木の分別回収なんですけれども、将来的にはバイオマスや、いろいろなことを考えながら対応していくということなんですけれども、ｔ数的にはあまり多くないというところでの答弁もいただいたんですけれども、普通のごみに紛れて結構入っているんではないかなというふうに思います。通常ごみステーションを見てましても、かなりの量で出ているときが結構あるので、その辺を分別することで、可燃ごみの収集量というのは減るのではないかなというふうにも思いますので、これは取り組んでいただきたいなというふうに思うところなの

で、取組のこういうふうにやろうというところがあるのであれば、詳しくというか、先ほど町長も答弁されたんですけれども、課のほうで何か考えている施策があるのであれば聞かせていただければというふうに思います。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

議員ね、言われるとおりなので、我々はこの令和10年に向けて、ごみ減量化して運営費を少しでも削減しなければならないと、拠出するお金をね、そのように思っておりますので、この草木についてもやっていきたいと思います。

この草木につきましては、いろいろと方法論はございます。自分の町一つに考えるのではなしに、例えば、先行地域になっている６町、その中で有効活用していただければ、その分が焼却ということから免れて資源ということになりますので、そういったことも踏まえながらやっていきたいと思います。

ただ、今回の「ボトルｔｏボトル」の水平リサイクルも、やはり分別で置く場所からまず探らなければいけないし、この草木も搬入の場所、そういったものも考えなければいけない。いろいろと難しい問題も出てくると思います。

そこで、一番我々が懸念するのは、町民の皆様が、そういった分別に対する負担に対して、どういうご理解をいただけるのか。まず、それが一番我々では心配しているところで、やはり分別が細かくなればなるほど、家庭でも置いていく場所がかかってきますし、いろいろな負担がかかります。それをどうご理解していただいて、ごみ減量が、４Ｒをすることによって、今後地球温暖化とか、どういうものに影響を与えるんだよと、そういうものを担当課としてはどんどん広報していただいて、以前も申し上げました、防災、健康、このごみ減量なんか、もうこれ全て我々広報します。でも、住民の皆さんの心がけ、心次第なので、これによって減量ができるというようなことでございますので、我々としては、そこをしっかりやりながら、今のごみ減量、私どもとしたら、まだまだ今、紀北町はごみが多いということは、今までその取組に対して、少し後塵を拝していたのではないかなと、自分自身思っております。

ですから、この草木のみならず、これからそういうところで資源化できる、消滅化できるようなものが、もしあれば、それに取り組んでいきたいと、そのように思っております。

入江康仁議長

奥村議員。

７番　奥村仁議員

町長答弁されて、課のほうで考えている施策があるんならというところで言ったんですけれども、もしあるなら答えていただきたいと思います。

入江康仁議長

垣内環境管理課長。

垣内洋人環境管理課長

すみません。環境管理課のほうでも、まだ決定はしていないんですが、草木というのが、やはり年間、持込みだけで100ｔほどになると考えられております。それらを何とか再利用できないかなというふうに、うちのほうも考えておりまして、いろいろな再利用している施設を見に行きまして、草木をコンテナに投入して施設に運んで、それをチップ化してガス発電や堆肥化というものをつくっている施設もありますので、そちらに持っていったりということで、この草木を単なるごみということでなくて資源として活用できないかなというのを検討を始めております。

以上です。

入江康仁議長

奥村議員。

７番　奥村仁議員

課長の答弁で分かったんですけれども、この草木の100ｔというのは持込みで分かっている部分というところを答えられたので、多分、ふだんパッカー車でごみ収集されておる中で、袋に入れられておる草木というのはかなり入っていると思うので、それもかなりきちっと分別して、それだけの収集にして堆肥にしたりというふうな形での施策をつくっていけば、かなりこの東紀州環境施設組合が稼働したときの、センターが、焼却場が稼働したときに、紀北町のごみに対する負担額の割合というのは、かなり下がるものだというふうに思うので、そこら辺は上手にごみ減量できればというふうにも思うところで、稼働した場合の話ですけれどもね。

では、次に入らせていただきたいと思います。

次に、今、言いました東紀州環境施設組合の在り方について質問をいたします。

我々議会が組合設立までに、また、その後に説明を受けてきた施設整備にかかる費用については、その都度変更されており、令和５年２月の組合の資料では、施設規模は１日の処理

能力を１日64ｔとして施設整備にかかる費用を算出しているというふうに思います。処理能力のｔ数に関しては、当初の計画量からかなり変更されていることを認識していますし、建設資材の高騰などにより、建設費用は見通しが立たないくらい変動していくのではないかと懸念しています。

現在の計画、建設にかかる全体費用、紀北町が負担する建設費、稼働後の費用負担額はどのように見込んでいるのか答弁を求めます。

また、我々議会に示された全体予算が174億3,000万円の場合、紀北町の負担額は８億6,000万円となり、単独で整備した場合には、当時15億円ほどとされておりましたが、施設建設に関する入札が終わった現在の進入路等を含めた全体予算と紀北町の負担額、今後の見通しについて答弁を求めます。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

それでは、基本計画時のｔ数のことをお話しされていたのではないかと思いますので、その当時のお話に合わせて、答弁をまずさせていただきます。

建設費の全体予算が79億5,000万円、うち紀北町の実質負担額が約8.6億円、運営費94億8,000万円のうち紀北町負担額が約28億4,000円でございます。また、令和２年11月20日の全員協議会においてご説明をさせていただきました単独整備の建設費用は約15億円で、運営費用は33億9,000万円と説明をさせていただきました。

今回契約させていただきました東紀州広域ごみ処理施設整備運営事業の設計建設工事につきましては111億6,390万円で、うち紀北町負担額は14億7,751万円、運営費負担額では92億4,000万円でございまして、紀北町負担額は27億6,900万円となっております。

今後、物価の高騰など懸念されることがございますが、変更されるような場合には、議会にもご説明をしなければいけないと思っております。

（発言する者あり）

尾上壽一町長

また、「万」抜けたかな。ごめんなさい。訂正いたします。

紀北町の負担額について訂正をお願いします。約28億4,000万円でございます。

入江康仁議長

垣内環境管理課長。

垣内洋人環境管理課長

それでは、すみません。議員ご質問された細かい数字とかを説明させていただきたいと思います。

まず、現在の計画というところなんですが、一番計画の新しいもので令和５年２月に策定されました東紀州広域ごみ処理施設整備基本計画が最新の計画となっております。

それから、建設にかかる全体費用なんですが、設計建設費が111億6,390万円でございます。それから、紀北町が負担する建設費は、そのうちに実質負担額といたしましては14億7,751万円となります。

それから、稼働後の費用負担額なんですが、20年間で27億6,922万8,000円の予定であります。

それから、進入路等を含めた全体予算なんですが、進入路についての金額は、まだ未定となっておりまして、移転補償の部分のうち紀北町負担分１億8,829万5,000円を足しまして、全体、すみません、移転補償の８億5,000万円を足しまして全体が211億5,390万円、それから、紀北町の負担額といたしましては、先ほどの建設費と運営費、それに移転補償のうち紀北町の負担額１億8,829万5,000円を足しまして44億3,503万3,000円という見込みとなっております。

以上です。

入江康仁議長

奥村議員。

７番　奥村仁議員

今、答弁いただきまして、大体その提示させてもらった金額と合っているのかなというふうに思うんですけれども、この令和５年２月のときに示された１日64ｔというのは、現在、１日59ｔで計算されていると思います。これに関しては、結局ごみ量についていろいろ変更されたわけではなくて、結局見た目のというと悪いんですけれども、全体のｔ数を減らすために稼働日の日数を増やしたことによって、１日の分を60ｔ切った59ｔに数字的に入れ替えたというような見方を私はしているんですけれども、ほかに関しても、実際に、どこが、どれだけかかる、これからかかる費用はどれぐらいになるというのが、ちょっと不透明なところが多くて、実際示された金額に関しても、例えば、稼働後の費用負担に関しても27億何千万円という中で、20年間の数字で出されているので、やはり毎年どれぐらい紀北町が負担するべきなのかというところは、いろいろとその負担に関する費用に係る整備であったり、い

ろいろなところが変わってくるから大体で見込まれとるんだと思うんですけれども、実際、毎年どれぐらいのランニングコストがかかって、紀北町がどれぐらい負担しないといけないのかというのがちょっと不透明な形で推移していると思います。

これは、自分らも組合議員ではないので、組合で決められてくることに関してしっかりと把握し切ってないというところも反省しなければならない部分もあるのかなというふうに思うんですけれども、それを踏まえて、今後、紀北町、この契約の中で進んでいくといったときに、今後、この流れでずっと行けるのかというところを、今後の見通しというところで答弁いただきたいと思います。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

まず、基本的に焼却のｔ数の変更について、概要だけお話しさせていただきます。

75ｔというのは、これは災害廃棄物10％を入れた数字でございました。

（「71」と呼ぶ者あり）

尾上壽一町長

71ｔ。５ｔと言った。71ｔでございます。すみません。

それから、64ｔというのが、この10％を運営の仕方によって減らせるであろうというのが64ｔで出てきた数字でございます。それから、59ｔというのは、環境省からの通達で稼働日数というのがございます。ごめんなさい、休む日数、これだけ休みなさいという制限があるんですよ。それが短くなった。そういうことであって、その実質の数字で割り返した数字でございますので、それぞれ根拠に基づいた数字だと思っております。

それから、毎年の費用のような話もさせていただきました。これですね、我々の推計でさせていただきますと、ＲＤＦが２基運営で約４億円、今、予算お話ししましたね。それから、海山のリサイクルを運用した場合、2.5億円から３億円ということでございまして、広域のほうは、これは広域のほうでも示されております１億3,800万円、約１億4,000万円ですね。こういう形で年々運営費がかかるということでございますので、よろしくお願いします。

入江康仁議長

奥村議員。

７番　奥村仁議員

各数字に対して背景というのがあるんだと思うんですけれども、我々の理解も必要なのか

なというところで、何がどうだったから、こういうふうに数字が変わってきたよというものの、ちょっと私たちと、たちというと悪いんですが、私自身もちょっと把握し切っていないというところがあってのことで、大変申し訳ないんですけれども、それを今、答弁いただいた部分で、進入路の分に関しては、まだ未定だというふうに答弁されましたので、進入路の部分で、また後で聞かせていただきたいというふうに思います。

それでは、移転される市営球場についてなんですけれども、これまでも使用されている方々に対して、どのような対応をしていっているのか。我々他市町の議員としては、移転していただく以上、納得される条件を提示できているのかという責任を有するという思いで質問してきましたが、我々他市町は、補償金を支払うことにて、その後は尾鷲市の対応であるというふうに答弁を一貫していただいているところであります。

しかし、ここに来て、野球場の施設の整備規模が大きくなったということを理由に、補償金の増額を打診されているということもお聞きするのでありますけれども、それは本当のことなのかという部分と、もし、本当だとしたら、どのような形で尾鷲市は考えているのか、どのような神経をしているのかというふうに思ってしまうところでもあるんですけれども、こんな組合で本当に何十年も一緒に事業をしていくことができるのかという部分で不安を感じるところでもあります。

野球場の移転補償に対する当町の考えを改めて確認いたします。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

野球場のことについてお話をさせていただきます。

野球場は、尾鷲市はいろいろと今、夜間照明も含めていろいろやっていると思います。我々に対して、まず、提示があったかということは、今、現状の野球場を精査してくださいということで止まっております。我々に対して増額の要望とか、そういったものは、我々というのは５市町全体に対して、ございません。そして、我々が一番最初に野球場の補償をしていくという話は、野球場が今、現時点の施設が同等規模のものを建設したときの金額を補償しますという話でございますので、それにどのような附帯の設備をつけようが、我々他の４市町がそれによって影響されるものではないと思っております。

ですから、そういう補償の仕方を一番最初のときにした上で、話を進めておりますので、例えば、そのときが７億円だったとしても、20億円の野球場をしても、あと13億円はその当

該市が工面しながら建設していくものだと認識しております。

入江康仁議長

奥村議員。

７番　奥村仁議員

野球場の補償負担金に関しては、５市町で８億5,000万円を補償する。８億5,000万円の中には移転の部分と移転したときの避難路構築の部分を足して８億5,000万円という金額を我々は提示されて、今に至っているというふうに認識しているので、ここに野球場の設備が大きくなったから、その負担額、上げられないかというのは、もし、そういう話が出てきたら、それはちょっと無理ではないかなというふうに思うところであるので、改めて確認させていただいたところであります。

そもそも市営野球場を建設予定地とすることは、組合設立準備会の議事録を見ると、令和２年７月20日の設立準備会にて決定されているような形であります。流れをずっと見ていくと、ほぼ野球場を移転するという形で、そこに施設を建設するという流れで、もう決まっているような流れで、この議事録が作成されているところでありました。

組合設立に関する議決案が出された令和３年２月15日の紀北町議会臨時会で議論したことについては、市営野球場以外に建設場所を見いだす可能性などを含んで、組合設立後の組合議会で議論していただけると期待し、賛成討論までしてしまった私の行動は、全く無駄な話であったんだなと、これを見て思ってしまったところであります。言葉は悪いかもしれませんけれども、私はまんまとだまされてしまったんではないかという気分でありました。

結局、５市町で広域ごみ処理施設をしていくという意思表示を正式に議会に求められたのは、組合設立の議案の議決の令和３年２月15日の臨時議会のみで、賛否は１票差でありました。私は、賛成討論をしましたが、その討論の中での要望は、組合で無視されてきたと感じています。

反対討論をされた議員の皆さんの討論内容を改めて見返すと、今さらですが、ごもっともな討論でありました。討論内容についてですが、これは大きな事業なので町民の方々に将来不安を残さないためにも慎重に進めるべきだという内容や、今後どのように進められていくのか不透明であり、組合設立後、不確定な部分がなし崩しに紀北町民の意に反して進んでいくのではないかと危惧されるというものや、施設建設予定地の市営野球場については、いまだに尾鷲市民の反対の声や法規制等もクリアされていない状況でもある。問題が山積しているにもかかわらず、今後、組合にげたを預けたら、これらの問題が十分に解決されず、確定

されていくのではないかと危惧されるというような内容での反対討論をされておりました。

改めてなんですけれども、今さらというのが自分の中にありますけれども、改めて、この反対討論をされた皆さんには敬意を表したいなというふうに思ってしまったところであります。

我々議員は、様々な議案に対してしっかりと調査して賛否の答えを出さなければならないことは重々理解しての賛成でありましたが、その後の組合の進め方を見ていると、あの賛成は間違いであったのかと反省するとともに、反対討論をされ、反対の表決をされた議員に対して、大変申し訳ない気持ちでおり、先般の全員協議会にて組合議員からの意見集約のためとして、東紀州環境施設組合への継続参加の意見聞き取りがありましたが、その際に私は脱退の意見に賛成いたしました。

脱退への賛成者は３人でしたが、それぞれの理由は違っていたと思います。これは紀北町議会での議決ではないので、単なる意見集約であったと認識しています。これも組合のことなのでというふうな答弁が予想されてしまうところでありますが、これまでのようなあいまいな進め方では、議会として到底快く事業推進に協力しにくいと考えます。このような施設を整備していく、運営していく関係５市町の議会として、施設が自分の町に建設されるようになった場合の住民対応と同じように考え、全ての地権者に一定の理解をいただいていることが安定した施設運営につながると考えます。

町長は以前の答弁で、大きな事業には全ての住民の賛成を得られないのも事実といったような答弁をされていたこともあると思います。私もそのことに関しては同感でありますが、今回のケースは、全くキャッチボールができていなかったのではないかというふうに思います。

このような現状について、５市町の町長としてどのように感じられているか答弁を求めます。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

議員の皆さん、それぞれ意見ございます。当然な話だと思います。その中で、いろいろ慎重に進める、不透明不確定、野球場に対しての声がある。これはもうもちろんいろいろな意見があってしかるべきだと思っております。しかしながら、そういうものを議論の俎上に上がって議決してきたのが現在でございまして、我々といたしましては、皆さんが意見出され

た全協も相当数やっておりますよね。そういう中で、節目、節目には全協をさせていただいて、議長にも、こういうことですという、議長個人だけのときもありましたが、そういうお伝え方はしております。

そして、皆さんから出た意見は、運営協議会がまずございます。その前に幹事会がございます。幹事会でも紀北町からこういう意見が出ていますよ。運営協議会でも、私はこういう意見が出ていますよ。そういう中で、運営協議会の中で団体意思、多数決を取ったり、そういった意見の集約、自分の意見を下げるとか、そういう行為をしながら進めてきているところでございますので、皆さんの意見はお伝えして、その最たるものが、場所の、広域ごみ処理の場所だと思うんです。最初、建屋のときの話をしたときは、本当にすごい、津波どうするんやというお話がありました。それから、より安全なところということで探していって、そこで不適切な問題も出てきます、もちろん。そういうことで、今の野球場になったので、そういう経過も、この今、あっちの組合議会のほうの、それから、全員協議会のこの開かれた日程を見ると、その節目、節目に全協も開かせていただいておりますので、そこはご理解いただきたいなと思います。

それから、意見の集約というような、先ほど全協のときの言いました。まさに、私は全協で採決、これ自体がどうなのかと思っていたものですから、それについて、しかし、意見の集約をしていただいて、多数決の中で前へ進もうじゃないかという話があったと思います。それから、議員がご心配するように、前へ進もうという中には、これだけ200億円からかかるものは、課題、問題、いろいろなものが出てきて当たり前だと思います。それを皆さんの意見も聞きながら、運営協議会、そして、広域の議会が最終決定をする今、権限を持っていますので、そういうところに提案しながらやっていく。これはもう民主主義の根幹たるものでございますので、そういう意見も踏まえてやっていかなければいけないなと思っております。

あと、理由ですね。意見集約であったということで、私はもう、そこで意見集約でいろいろあるけれども、前へ進もうじゃないかと集約いただいたのはありがたいと思っております。ただ、その意見に基づいて、３月定例会で予算化させていただいて、予算がお認めになりました。これが議会の議決だと思います。予算が数字であり、その町の計画であります。これは十分分かっていただけますよね。そこでご可決いただいているということは、そこでも質疑もできますし、一般質問もできます。そういう中でのご可決なので、私は議会の団体意思をしっかりと尊重したいと思います。

入江康仁議長

奥村議員。

７番　奥村仁議員

町長の答弁、全くそのままそのとおりだというふうに思います。過去を振り返って、自分らも賛成したこと。議会で可決してきたことというのは民主主義であって、それはひっくり返すことができない。自分らも納得したことであって、反対した方についても、その後、それに応じて前へ進もうという形で来ているところでありますので、前へ進むのであれば、やはり自分たちの意見というのが、その後の組合で取り入れられて進んでいく姿もしっかりと見えるようにしていただかねばならないという部分で、少し前に戻って話をさせていただいたところであります。

まず、その流れの中で、先ほど課長も答弁された中の国道311号からの進入路に関してでありますけれども、これに関しては、今後、これに関しての予算が見えてくるというところだというふうに捉えたんですけれども、それに関しての進入路の在り方に関して説明をいただきたいというふうに思います。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

我々は、運営協議会の中で、ほかの５市町もそうなんですけれども、やはり過分な拡幅じゃなしに、今、相当な数のパッカー車なり中継したものが入ってくると思いますので、それに対応する必要な部分の拡幅についてということでございます。

それから、あそこは真砂線という市道なので、尾鷲市の道なので、尾鷲市が改修して、それに対する負担金を払うという形で今、話を進めておりまして、まだその拡幅計画はしっかりと示されていないので、金額も明示できないというようなところでございます。

入江康仁議長

奥村議員。

７番　奥村仁議員

この進入路に関しては、撤去工事も始まってくるということで、広げるところになると思うんですけれども、先が見えない中で負担額は要るんですよという形になるので、これも早急に計画をしっかりと示していただく必要があるのかなというふうに思っております。

それでは、先ほどの流れの中で、これもマイナスの話なんですけれども、令和５年度につ

いて当初で、先ほど町長答弁されましたけれども、議決の中で予算の修正案が出されて、義務経費であることから、後日の中で再議という形で予算が認められたという形になっておりますが、これについて、再議で、もし否決になった場合というのは、専決として予算執行されたものだったのかということと、もし、この７年度予算、同じような形になった場合は、そういう形で専決という形で予算執行されるという部分なのか、そのやり方について答弁を求めます。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

これは、マイナスな部分を今、述べていただきました。しかし、我々は再議のときもそうですが、議員に理解をいただきながら、ご可決いただくのが本旨だと思っておりますので、令和７年度予算においても、議員にご理解いただけるように努力してまいりたいと、そのように思います。

入江康仁議長

奥村議員。

７番　奥村仁議員

７年度予算出てくるまでに、我々が納得できるようないろいろなことが示されるとよいかなというふうに思っております。

それでは、最後の災害ごみの一時集積について、質問いたします。

当町は16年の大水害で大量の災害ごみがあったんですけれども、それに関しては、家財の搬入がほぼだったと思います。もし、東南海地震が発生したときは、そのレベルではなくて家屋の倒壊なども見込めて、災害ごみが非常に多くなると思うんですけれども、この件に関しては、以前聞いたところでおりますと、集積場所の想定はしていますけれども、公的には外には表明できないというふうな流れで説明を受けたのを覚えておりますが、この災害ごみの集積について、どのように方針を立てておられるのか。ここで言える部分に関してと言えない部分もあるかと思いますが、答弁を求めます。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

災害ごみの集積について、やはりまず第１は、町有地を中心に行っていきたいと思います。

16年のときは海山だったので、小松原と便ノ山、宇山のところに、町有地を利用させていただきました。そういうことからすると、一定の災害であれば、そういうところで集積ができるのではないかと思っております。

ただ、東南海、南海トラフ地震なんかが来た場合、もうその被害を受けたところが集積場のような形になります。私も何か所か見てきました。陸前高田もそうです。それを片づける間は、もうそこが集積場のようなことで、人はもちろん住んでおりませんので、そういう状況にならざるを得ないと私自身は思っておりますので、一定の海山水害のようなところであれば、その当時のような形で受け入れていくのではないかと、自分では想定しております。

入江康仁議長

奥村議員。

７番　奥村仁議員

住民の方で、やはり考えておられるのかというふうなことで質問されるので、そういう場所について、今、町長言われたように、災害で被害を受けた場所が集積場所になってしまうというのはあると思うので、また、それを今回聞いていただいたらよいかなというふうに思っております。

今回は、当町におけるごみ処理施策についてお聞きしました。広域ごみ処理施設建設については、組合が設立され、事業が進んでいるのが現状ですが、先般、組合脱退論を表明してしまった私としては、膨れ上がる建設費や現在の施設の耐久年数が15年あるという、2040年に予想される人口から算出されるごみ量を考えると、いまだにこの組合で事業展開が本当に正しいのか疑問が残るわけですので、今後も納得できる組合の運営や議会に対する対応が見えるまで、この問題について言及していきたいと思います。

これで、令和６年12月定例会における一般質問を終わります。

入江康仁議長

これで奥村仁議員の質問を終わります。

入江康仁議長

ここで、10時45分まで暫時休憩といたします。

（午前　10時　28分）

入江康仁議長

それでは、時間が来ましたので、休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前　10時　45分）

入江康仁議長

次に、11番　近澤チヅル議員の発言を許します。

11番　近澤チヅル議員。

11番　近澤チヅル議員

11番　近澤チヅル。12月議会の一般質問を行います。

今年も、あと13日を残す日々となっております。本年も地球温暖化が進み、また、物価高でお金が飛ぶようになくなり大変、主婦の方の感想です。その上、来年からは、まだまだ値上げが続く。何とかしてほしいという声が多く聞かれます。

そんな中、12日は2024年度補正予算が衆議院本会議で可決され、昨日は参議院を通過しました。補正ですから、特に頻用となった経費などに対応する予算だから、物価高から暮らしを守る支援を一番私は期待していました。ところが、暮らしへの支援、自由に使えるのは6,000億円、軍事費、2025年度分の前倒しをし8,280億円や、特定の半導体企業ラピダスへの１兆円の支援など、市民、国民への支援より、大きな企業への支援が大きかったことは、私もそういうことなんだと思いました。

一方で、年末にはうれしいこともありました。一緒に去年国連で活動に参加させていただいた、被爆者の団体の方がノーベル平和賞を受けることができました。一緒に行った方がノルウェーにおられる姿をテレビで見て、本当に喜んでおりました。

さて、この12月議会に戻ります。予算議会とも言われます。少しでも、誰もが明るい25年を迎えることができるよう、自治体の役割を果たしてほしい、そういう願いを込めて質問をいたします。

１、みんなが住みやすい町を目指して、その中の１番、子育てしやすい紀北町についてをお伺いいたします。

まず、給食費の無料化の継続について伺います。

昨年は、４月から１年間、今年度は年度途中から給食費の無料化が決まり、４月に遡り、同じように１年間分の給食費無料となりました。これは県下でも評価すべきものであります。ぜひ来年度も、通年での無料を続けるべきであると思いますが、町長の考えをお伺いいたします。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

近澤議員のご質問にお答えをいたします。

この１番全般にわたって、いろいろと、こうしてあげたらどうですかというようなご質問だと思います。十分我々こういったことができればいいなと思っておりますので、まずその点をご理解いただきたいなと思っております。

そういう中で、ある文章を読んだことがございます。これは以前にも議員に申し上げたんですが、「知足」という老子の言葉がございます。分相応のところで満足する。それから、足るを知るものは富む。公平な行政サービスが行えるお金が市町村には交付される中、豊かさへの追求と行政への要求は制限がございません。ただ、入ってくるお金が限られておりますので、その辺をご理解いただいた上で、ご答弁をお聞きいただきたいと、そのように思います。

小学校の給食については、今年度は三重県の補助事業を活用しながら、全額免除しております。

継続につきましては、今後、国、県の動向を注視しながら、子育て世代への支援を検討していきたいと思っております。

これ、先ほども答えたんですけれども、地方創生のお金、それから、子ども・子育て、これ議員と考え方の方向は一緒なので、全て給食費無料化に向けて入れさせていただいたところでございます。

入江康仁議長

近澤議員。

11番　近澤チヅル議員

思いは同じと、いつもそうおっしゃっておられます。国の動向をというお話もありました。資料をいただいた、今回の補正予算で可決されたと思うんですけれども、重点支援地方交付金の取扱いについてが、11月22日に閣議決定され、29日に内閣府デジタル庁から都道府県、

各市町に通達が届いているはずですが、6,000億円の中で、三重県には、国も使いやすい、給食費にも使えますよという国の動向です。そして、三重県には6,000億円の中で45億円届いているという県の情報です。

紀北町については、それらを町長がおっしゃられるように、昨年は本当に苦労して、いろいろな補助金を給食費の無料のほうに回していただいた、そういうお話も伺っておりますので、引き続き、県下でも優れた、そうすることによって若い人たちが移住してこられるかもしれません。子育てしやすい町をスローガンにしていただきたいと思って、今回もいろいろ質問をしております。

地域の宝である子どものために、教育費無料化の下に立って、条例化して無料を実現するよう、私は町民の皆さんの思いを町長に託したいと思います。お答えをお願いいたします。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

条例化ね、本当にそう目指すように我々もしたいんですが、先ほど申し上げた財源の関係もあります。今、国のほうの方針の給食費も使えるというのも私もどこかで読んだような気がします。そういう意味では、私の方向性もそういったところがあるので、どういう予算が、どれだけ出てくるか今の段階で分かりませんので、また、どの段階で検討していくか、今の段階ではまだ財源が国のほうも県のほうも決まっておりませんので、ただ、議員の意見も十分取り入れた上で検討していきたいと、そのように思います。

入江康仁議長

近澤議員。

11番　近澤チヅル議員

前向きに検討を願いたいと思います。

それでは、子どもの医療費窓口無料の拡大をに移ります。

本年度は入学前までとなっております。毎年12月議会でお話をさせていただいておりますが、以前は県下で統一して無料化を行っていました。ですが、本年度、県下29市町のうち17市町では既に７歳以上の窓口無料が行われております。58.6%の市町で行われているわけです。子育てしやすい紀北町にするためには、ぜひその６割に入るべきだと思います。町長の考えをお伺いいたします。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

窓口無料化の範囲拡大については、対象者が受診する医療機関との調整を図るために、紀北医師会や同じ医師会管轄の尾鷲市との協議が必要になりますが、三重県においても窓口無料化の範囲拡大をしている市町は、今、議員おっしゃったように増えております。

現在、三重県では、対象範囲を拡大すると医療費補助を減額する措置を課しているところでございます。

したがいまして、我々はこの無料化、減額措置が三重県のほうにも取っていただきたいと、そのような要望もしてまいりますし、我々としては、窓口無料化に何ら抵抗するつもりではございません。ただ、やはりこういった、また、財源のことを言って申し訳ないんですけれども、そういったものを徐々にクリアして、どこに近づけていくか、目的に近づけていくかというのは、財政も預かる我々の仕事だと思いますので、そこのところは、その方向で随時進めていきたいということでご理解願います。

入江康仁議長

近澤議員。

11番　近澤チヅル議員

県も先般行われました議会で、私どもの県議、吉田あやかが障害者の方の窓口無料について質問いたしました。そのときの答弁は、前向きに検討したいということです。初めて県がそういう回答を示しております。今までは、何かブレーキ役みたいなところがあったのかなという思いもありますが、前向きに検討するという、これはもう伊勢新聞、中日新聞にも載りました。そして、県がその前向きに実現すれば２分の１の補助が、財源も来ます。ぜひこのことも踏まえて検討していただきたい。再度お答え願います。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

そのような方向で進むことを私も望みます。

入江康仁議長

近澤議員。

11番　近澤チヅル議員

ぜひ拡大に向けて頑張っていただきたいと思います。

それでは、保育料の無料化について質問します。

現在、国の制度では３歳、５歳児は保育料が無料になっています。しかし、共働き世代にとって、０、２歳児でも保育園を利用しなければ仕事が続けられない、生活できないという状態になっている方もたくさんおられます。

過去、紀北町はその０、２歳の子どもも無料であったので、今年もかなと思ったら、大変な思いで今、生活しているという声も聞こえてきました。その０、２歳、再び実施すべきだと思いますが、町長の考えをお伺いいたします。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

まず、経緯等も含めて答弁させていただきます。

保育料につきましては、令和元年10月から国の制度により３歳児以上及び住民税非課税世帯の０歳児から２歳児の子ども等について無償化はされているところでございます。

それ以外の０歳児から２歳児の子どもにつきましては、令和２年度の９月から３月、令和４年度の４月から３月分、令和５年度の７月から３月分は財源、先ほど申し上げましたコロナ対策の地方創生臨時交付金、これを活用して保育料を全額減免をしております。

これも先ほども申し上げたように、有効であり、喜んでいただけると、子育てにプラスになるという考えの下で、そちらのほうにシフトをさせていただきました。

また、減免をしていない年度におきましても、国の基準より低い金額設定をしております。例えば、住民税所得割課税額４万8,600円以上９万7,000円未満の世帯では、国単価月３万円のところを町単価を２万500円として差額の9,500円を、もう既に町で負担しているところでございます。令和５年度の実績では、約830万円を負担しているところでございます。

加えて、３歳児から５歳児の子どもにつきましては、おかず、おやつの費用である副食費についても全額町で補助をしております。令和５年度の実績は630万円となっております。これらにより保護者の負担軽減を図っているところでございます。

以上です。

入江康仁議長

近澤チヅル議員。

11番　近澤チヅル議員

３歳、５歳児の給食費は、私が提案をして実現させていただいております。財源はほかの

ところからの差額で十分、それは財源が保障されております。そして、０、２歳児保育料、国の基準よりも低く保育料を設定しているとおっしゃっておりましたが、国のとおり実施している自治体はほとんどないと思います。このような非課税世帯の多いような小さな市町の方は、どこも100％の国の基準でしている自治体は、私の知っている限りはないように思います。皆さんそれぞれ地域に合わせて低い保育料の割合を出しているのが通年のことだと思いますので、このことについても前向きな検討をお願いしたいと思い、次に移ります。

高齢者に優しい紀北町に、に移ります。

高齢化が進み、年を重ねることは大変と思うことが多々あります。いつまでも元気で、住み慣れた紀北町で、元気に笑顔で過ごしていただきたい、そういう思いで、今回は高齢者の公共交通についてお尋ねいたします。

１、交通権に対する認識を問います。

移動が自力でかなわなくなったとき、移動手段として公共交通があるのだと思っていました。ところが、先日、名古屋で開かれた日本高齢者大会に参加し、公共交通の分科会で、久々に交通権という言葉に触れました。移動の自由だけでなく、高齢者の人権を守ること、それが高齢者の幸せにつながり、全体として豊かなまちづくりにつながるという、そして、住民参加の交通網を考えなくてはいけないというお話でした。それらを実現させるのが行政の役目だということに気がつきました。

町長におかれましては、この交通権をどのように捉えておられますか。認識をお伺いいたします。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

交通権ということでございます。全ての人が公平に移動手段を利用できる権利を示しまして、交通政策基本法は、その権利を実現するための法律でございます。交通政策基本法は、交通権の理念に基づき、持続可能で安全な交通体系の構築を目指し、具体的な施策を進める枠組みを提供しますと書かれております。

（「認識、書かれておりますという認識」と呼ぶ者あり）

尾上壽一町長

ああ、何か意見を言うのか。

（「認識がどうなのか」と呼ぶ者あり）

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

交通権を、移動する手段をしっかりと確保しなさいというのが、これは人としてのことだと思います。ですから、我々の町はそれを目指してやってきて、公共交通会議でお認めいただきながら、三重県でも交通空白地、これがない、ゼロの町でございます。そういうことで、我々は「えがお」等も活用しながら、その交通権、移動する手段は確保させていただいております。手段の方法、公共交通も使いながらということなので、そこはご理解いただきたいと思います。他の市町もそういう観点の中で、公共交通会議の中でお認めいただきながらやっていることだと思います。

入江康仁議長

近澤議員。

11番　近澤チヅル議員

交通権という言葉を柱にした、やはり交通政策が必要だと思うんですね。そして、行政が住民の皆さんの思いも聞きながら進めておりますが、現在、果たして紀北町の公共交通が全て順調というのか、ひずみも来ていると私は思います。それで交通権が果たして、どこまで守られているのかということに疑問も持っております。

特に、三重交通に依頼している部分が多いと思いますし、また、先日も志子のほうで何人かの方にお伺いしたんですけれども、河合線は空気を運んで、乗っているのは１人見るのも時々よと言っておられました。また、それは１人や２人じゃなくて、皆さん、そうおっしゃっておられました。上里地区においても、今はお店もなくなり、昨日もありましたけれども、大変な状況で、尾鷲へ、病院へ行くのに福祉タクシーを利用すれば往復3,300円かかると言っておりました。医療費は400円か500円ぐらいで、もうとにかくバスに乗っていくと予約時間に合わないので、また体調もよくないから医者に行くので、なかなかバスを利用することができない。そういうお話もいただいております。

ぜひ交通権を利用した住民の、高齢者の皆さんに優しい、そして、公共交通会議も連合自治会長の方も、いわゆるいきいきクラブですか、そこの代表の方も入っておられます。でも、その方たちは車で来られる方ですね。ぜひそういう場所にも住民の代表も、そういう自分の足になる、免許返納とか、もともとから持ってなくていろいろなことを利用しないと動けない、そういう皆さんも会議に、ぜひ入れていただいて、皆さんに対応したバスを、対応した

ものを自治体の責任として、これから考えていっていただきたいと思います。交通権を保障していると私は言い切れないと思うんですね。

そして、住民参加でないと、これらは実現しませんので、本当に困っている方の声が、その公共交通会議の中で反映されるような体制にしていただきたい、そういう思いもあり、再度、町長のお考えを、交通権に関してですね、ちゃんとやっているんだ、それに即してやっていくべきだと思いますし、ここへ来ていただいております先生も同じ交通権を保障する考えでいらっしゃると思いますので、町長の考えを再びお聞きします。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

住民の皆様の移動手段については、いろいろと改善してまいりました。公共交通会議も含めてですね。ですから、今の形態があって、交通空白地がなくなったというのが、今、県内でも大きな評価を得ております。

したがいまして、そういったことはやっておりますが、それがだから、全て100点かということではございません。ウェルビーイングというお話、昨日させていただきました。今よりというような感じで、少しでも利用度を上げていき、しかし、利用区分、それぞれの業種によって営業のやり方とか、そういった収支の取り方がございます。民間は、やはり一定の収支を必要としますので、そういったところまで権利を侵して行くのかどうかという話もございます。

ですから、我々としては、交通権というか、移動できる手段を最低限確保、今、紀北町がしております。これが、これからこういう公共交通をどういうふうに発展させていくかというのは、今後の課題だと思っております。

入江康仁議長

近澤議員。

11番　近澤チヅル議員

前向きに検討をお願いしたいと思います。

それでは、敬老パスの実現をに移ります。

先ほども述べましたように、自力での移動手段が限られてしまっている高齢者にとって、自由に移動できるのは、何も交通面だけがよくなるというものではありません。しかし、もしも敬老パス、無料の券などの支援があり、無料で移動ができれば、高齢者にとっては移動

範囲が大きくなり、その分だけ経済活動域も広がり、そして、歩くことで健康にもよいというように、交通権で保障されている高齢者の人権の保障に大いに役立つものであると思います。

また、地域のお店を利用することによって、地域も活性化するという、敬老パスを実現しているところでは、その実績があります。どの交通にも利用可能な無料の敬老パスをつくるべきだと、そして、高齢者の皆さんの生活を応援するべきだと思います。町長の考えをお伺いいたします。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

高齢者の方に対する助成、これも先ほどと同じような部分のお答えもあります。助成については、「いこかバス」とか路線バス、高齢者、半額になっております。また、三重交通も半額のサービスを行っております。ですから、先ほども申し上げたように、それぞれの一律ではなしに、高齢者等に優しい料金設定となっております。

ただ、議員がおっしゃるのは、もう安くして、誰でも乗れるようにどんどんというようなイメージがあるんだと思います、きっと。それは、やはり高齢化率も47%、約半分の方が高齢なので、それをどんどん補助しいていくというのも大変難しいという、ここもご理解していただかなければいけないと思います。

ただ、先ほども申し上げたように、どこの部分で、どこを集中しながら、住民の皆様、高齢者や体のご不自由な方が移動しやすいようにするというような工夫は、今後も続けていきたいと思います。

入江康仁議長

近澤議員。

11番　近澤チヅル議員

全ての高齢者の皆さんに無料パスというのは初めての提案でございまして、難しい面もあるかと思いますが、前向きに検討をお願いしたいと思います。

私は、今回、この質問に当たりまして、当然企画課のお答えになるのかなと思ったら、敬老パスと書いてあったので、福祉保健課の方の聞き取りを受けました。敬老とついたら福祉課というイメージでなく、私は町の施策として、まちづくりの一環としてこの支援策を、敬老パスを考えておりましたので、そういう面でも、ぜひ高齢者だからとかいうのではなくて、

重要な大切ないろいろな人生経験を経て高齢になられた方を大事にして、その方の力も借りながら、地域もつくっていかなければならない部分もありますので、ぜひ移動手段の大変な方への、もう高齢者の方は一日でも長く自分の足で歩きたい。そして、一日でも長く自分で箸を持ってご飯を食べたい。そういう思いで過ごしておられる方もたくさんおります。そういう方々を応援する支援策としての無料の支援を、ぜひ今回考えるべきだと思います。重ねてのお答えになるかとは思いますが、最後に、このことに対しての町長のお考えをお伺いいたします。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

聞き取りは確かに福祉課が行ったんだと思いますけれども、この公共交通については、それぞれの議員の皆さんがどの質問しても担当が行くと思うんです。しかし、そこを統合して考えるのが我々町長とか副町長の答えになって、このこういった場で出てくるので、それはもうそれぞれの担当ありますけれども、総合的には私が責任とそういったものを持って、自分の施策とかみ合わせながら進めていくということになりますので、そこはご理解いただきたいなと思います。

だから、何課がじゃなしに、全体的な公共サービス、公共福祉、社会福祉について考えております。その中で、今、言ったようにトレードオフという、バランスを考えながらやらないといけないので、結局は私のところへ来て、私がいろいろなバランスも考えながらやるわけですよね。前もお話しした、二律背反という言葉がございます。税と社会福祉、それから、環境と経済、こういった相反するものが、どこでバランスを取って、どこに落ち着けるか。そういうことをしないといけないので、一方で言えば、もう議員の言うとおりなんですよ。ただ、それらをみんな含めて、高齢者もあります。子ども・子育ての支援もあります。そういうもののバランスを全て我々が調整しながらやっているということをご理解願いたいと思います。

入江康仁議長

近澤議員。

11番　近澤チヅル議員

次の大きな２番目に移ります。

残土問題について伺います。

私は、この１年間、毎回この質問をしております。いつになったら、この質問をしなくてもよくなるのか。自分でもそう思います。しかし、職員の皆さんは頑張っておられるのはよく分かります。でも、上里地区の人々にとっては、現状が何も変わっていない。それも水源地の上流でのことです。私は、今回もこの質問をせざるを得ませんでした。

９月議会の後で、上里自治会から残土に対しての署名が785筆提出されました。これは、上里地区が発行している上里だよりに大きく取り上げられました。その中で、許可を得ていますので、抜粋を読ませていただきます。町長のお答えですね、そのときの、提出したときの。

皆様の思いの詰まった署名へのお礼や町としても同じ方向で対応をしっかりとやっていきたい。町民の皆さんのおっしゃることと行政の対応が少し違う部分も出てくると思うが、皆さんの立場に立って、全ての行動を行っていきたい。住民の思いを、このように伝えていただいたので、今まで以上にしっかりと対応していきたい。

そういう回答があったことを自治会の方は、回覧板で区民の皆様にお知らせしております。この回答を読めば、今まで以上に町がしっかりと対応してくれるに違いない。これで残土問題も前進し、解決の道も遠くないと、私も期待をしておりましたが、区民の皆様はもっと自分のことです。

そういう内容になっているとは思うのですから、あれから３か月がたちました。その後の経過と現状について、そして、町条例違反の状況はどうなっているのかお伺いいたします。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

残土問題でございます。毎回のようにご質問いただいて、ご心配いただいております。ありがとうございます。

我々としても、議員の年４回の質問に答えていますが、私たちもほぼ毎日のようにいろいろと対応を考えたり、事実が入ってくるのを真剣に議論しているところでございます。そういった部分を、まずはお分かりいただきたいなと思います。

現状につきましては、盛土の現状、名倉港を経由して大名倉地区の紀伊長島不燃物処理場横の民有地に、条例適用規模未満と思われる盛土行為を確認しており、今後も注意深く監視しております。

また、大河内川沿いの盛土につきましては、新たな土砂の搬入は確認されておりませんが、

町条例に抵触している部分がございます。これについては、現在、行政指導中でございます。

入江康仁議長

近澤議員。

11番　近澤チヅル議員

まあ、私は上里のほうを聞いたわけですが、行政指導中ということでした。指導というのは、あくまでも指導なんですね。ここ何年来、県も指導、町も指導しておられますが、指導には効力がないということを、私、何回もこの場でお話をさせていただいております。やはり命令書を出さないと効力がないと思いますし、先般も、畑先生や村田弁護士さんとお話をさせていただきましたが、同じように、指導書では効果がない。それはもう、ここ１年以上、よくお分かりのことだと思っていますが、なぜそういうことになられるのか。いろいろな思いがあるのだと、同じ思いだとおっしゃっておられますので、そういっているのかなとも思います。

そして、たまたま私、昨日、42号線を通りましたら、また、そちらの方向にダンプカーが、水源地の方向に土砂を積んで入っておりました。ほかの用事があったので、後を追うことはしませんでしたが、また始まっているのかなという思いも、違うかもしれませんが、交通整理の方もおられましたので、また、何かが始まったのかなという思いもあります。

９月議会後に、上里の人たちに宣言したように、直ちにその条例違反のその指導でなく、命令書を出して、一歩前進させ、地区の皆さんの心を安心させていただきたいと思います。やっておられるのは分かりますけれども、本当に上里の皆さんの水源地の命の水が危ないということに、本気で心を寄せていただいていたら、私、命令書を出しているのではないかなという、失礼かもしれませんけれども、そういう思いでいっぱいでございます。もう一度、町長のお考えをお伺いいたします。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

まず、トラックが土砂を積んでいるというのは、公共事業で行っている事業でございますので、ご心配いただかなくても、我々も新たに土砂が搬入されているのを確認しておりませんので、そこのところは条例において、いろいろなことをやることによって今、止まっているんだとご認識いただければと思います。

それから、今、行政指導の中には、指導、勧告、それから、そういったものに対応する相

手のタイムスケジュールというとおかしいんですけれども、そのきっちり確認取りながら、一段階ずつ上げていっている状況です。ですから、今、どの段階というのは相手もあることなので、ちょっとお話できないんですが、確実に行政指導として、指導、勧告、そういったものを進めているというのだけご認識いただきたいと思います。

ただ、それをするには、これはもう弁護士ともいろいろ相談してるんですけれども、やはり一定の申達というか、こうですよ、こうですよと、そういうのをしてから、一定の期間を置きながらやっていかなければいけないということになっています。例えば、それを飛び越えて、あることをやれば、逆にそのことが条例違反、法令違反ということで、こちらも訴えられますので、着実に弁護士と相談しながら、一定の期間を取りながらやっているということで進めておりますので、そこは我々を信じていただきたいと、そのように思います。

入江康仁議長

近澤議員。

11番　近澤チヅル議員

町長を信じるしか、ほかに前進の道はないので、よろしく前に進めていただきたいと思います。

そして、要望の実現についてに移ります。

２番目の残土のところのですね、２番じゃない、要望の実現について、やはり上里の皆さんも私もですが、県外残土の搬入禁止の条例に改めるべき、許可制にすべきということは、共通の願いであり、条例違反が今も行われているのは事実ですので、ぜひ県のほうも動きがあったようですので、県のほうの規制の動きはパブリックコメントも求められておりましたが、どういう状況なのかお伺いいたします。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

要望の実現ということが、上里地区の要望ということでよろしいんですね。それには真摯に対応しておりまして、行為者のみならず、地権者に対しても、我々は文書等で行動をしております。それで、県のほうも、国の土砂法、盛土法に関して、それでいろいろ調整を、整合性を取っているということでございます。条例の、この後出るのか、さっき言われたのか分かりませんけれども、やはり条例、法令、憲法、法律、それから、条令、この整合性を取るのが大変難しい部分がございますし、守らなければいけないところだと思いますので、

我々としては適切にやりたいと思っております。

県のほうの状況は、課長、分かります。では、課長のほうから答弁いたさせます。

入江康仁議長

垣内環境管理課長。

垣内洋人環境管理課長

県の土砂等の規制等に関する条例改正の動きなんですけれども、現在パブリックコメント終了しまして、条例改正の素案が出来上がっております。その素案は町のほうもいただいておりますので、県条例、国の盛土規制法ともに整合性の取れる、よりスムーズに行くような条例改正に、紀北町も進めていきたいと考えております。

入江康仁議長

近澤議員。

11番　近澤チヅル議員

そうやって進めていっていただきたいと思いますし、改めて何回も、毎回言っておりますけれども、県外土砂搬入禁止、許可制にするような条例になるよう期待しております。

それでは、最後の環境に優しい紀北町に移りたいと思います。

紀北町では、プラスチックごみの分別処理が来年１月から開始されます。プラスチックに関しては、トレーのみ資源として回収していましたが、今度からは、その回収が終わり、分別するのも１つ増えることになりますが、先ほどもありましたが、なかなか広報に入っているチラシを見て、どうやってするのかな。もういろいろな町民の皆さんの思いが伝わってきておりますが、どういう思いで、どこまで、頑張っておられるというのは分かるんですけれども、そして、これをすることによって循環型社会形成推進交付金の要件にも当てはまるようになり、そういう財源の面でも有利に進めることに挑戦していただいたということに対しては、大変評価したいと思います。

どこまで、どれぐらいのことを、大ざっぱにで結構ですので、全てを一遍に実現するのは難しいと思いますので、そこのところを目指したのかお伺いいたします。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

プラスチックごみ等のことについてお答えをさせていただきます。

先ほど来出ているんですが、軟質プラスチックの回収、「ボトルｔｏボトル」、こういっ

たものを随時進めていきたいなと思っております。

そして、先ほどの答弁にもなるんですが、やはり分別というのは町民の皆さんに大変負担がかかります。それと分かりにくいのもあります。そういったものを根気よく進めていく、それが浸透するには相当な時間がかかると思っております。

私も、この銚子川の水を飲んでいるんですけれども、部屋のほうに持ち込むんですけれども、これ今もこの軟質プラスチックを取ってやっております。しかしながら、その軟質プラスチックはどこへ行くのかとか、いろいろなケースがございますので、我々としては、一つずつできることから取り組んでいただきたいということでございますので、これはこういう「ボトルｔｏボトル」の運動だけじゃなしに、全てのことについてもしっかりと取り組んでいただきたいなというのが私の思いでございます。

入江康仁議長

近澤議員。

11番　近澤チヅル議員

どこまで具体的にという答弁がなかったように思います、今ちょっと。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

担当課から答弁いたさせます。

入江康仁議長

垣内環境管理課長。

垣内洋人環境管理課長

今回のプラスチック分別につきましては、先ほども申し上げたんですが、軟質プラスチックのみを分別することになります。

入江康仁議長

近澤議員。

11番　近澤チヅル議員

そういうお答えでしたが、時間がないので次に進みます。

プラスチックをめぐる環境についてをお尋ねいたします。

現在、プラスチックをめぐる問題は大変なものになってきています。そもそも以前より地球温暖化がますます深刻になってきていると言われ、今夏も異常な暑さに見舞われました。

その原因の１つに、CO_2の排出が関わっている。そして、このCO_2を大量に出しているのが焼却によるごみ施設だという説もあります。そして、地方自治体においては、全国的には、紀北町は生ごみとか多いんですが、その焼却の９割が合成繊維を含むプラスチック製品であると言われており、プラスチックを焼却処分することへの悪影響が心配されているところです。

また、プラスチックは目に見えないマイクロサイズの塊となって、いつまでも残り続け、もう人体にも蓄積されています。実際に、人間の体からマイクロプラスチックが検出され、話題となっております。さらに、海洋にあるというのが人体に影響ある部分もありますが、富士山の観察所から、空気中にもマイクロプラスチックが残っていることが判明し、衝撃が広がっております。

このようにプラスチックをめぐる問題が大変なものになっています。紀北町として、新しくプラスチックの分別も始まったところですが、プラスチックをめぐる環境について、町長の見解を問います。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

プラスチックね、うち、スポＧＯＭＩを去年からやっていますよね。あれに私も参加しましたけれども、やはりプラスチック系のごみが多いです。この間もテレビで見て、潜水夫の方が潜られて、そこにプラスチック、ペットボトルの容器とか、そういうものが捨てられているのもつぶさに見せていただきました。

ですから、これはやはり４つのＲ、先ほど申し上げましたね。それで、なかなか分解しないものはやはり同じ、今回の協定がそうなんですけれども、水平リサイクル、「ボトルｔｏボトル」、そういうような形でやっていかなければいけないなと思います。ですから、分別でき、資源ができるものはそのようにしたいし、そういうものができないものは資源化して、どうするかとか、４つのＲを住民の皆さんに意識してもらう。その運動をやっていかなければいけないと思いますし、プラスチックは、一方ではなくてはならないものだと思っておりますので、そういうことはしっかりと対応していきたいと思います。

入江康仁議長

近澤議員。

11番　近澤チヅル議員

プラスチックはなくてはならない部分もあるけれども、減らしていくべきだと私は思っております。

（「おっしゃるとおり」と呼ぶ者あり）

11番　近澤チヅル議員

プラスチックをめぐる問題は悪化の一途をたどっています。プラスチックが大量に生産され、それを焼却処分することでCO_2が大量発生する。また、微細なマイクロプラスチックによって空気中にも飛散します。富士山で観測されたのですから、ここら辺も観測したら、多分空気中にも漂っているのだと思います。

国は、このたび、少し前ですが、プラスチックの処分は焼却に頼らず分別、収集とリサイクルに力を入れていくという法律を出しております。まさに、紀北町もこの宣言に乗って、分別の一歩を進んでいるということで評価はしておりますが、先日の他の方の一般質問の回答に、町長は、10年、20年先を見込んで物事を考えていかなければならない。効率的でないものはしないとおっしゃっていました。私もそのとおりだと思います。先を見越して行動を起こさなければいけません。

そうなると、私には１つ懸念があります。それは、現在進んでいる５市町で造る大量ごみ焼却施設のことです。大量消費・大量焼却、これは今の国の方針ではなく、プラスチック新法で国が方針を定めるということになっておりますが、今の計画中のものや建設中のものには、その法律は触れることがないと言っております。そして、今、計画が進んでいるわけですが、20年先を見込んだ場合、今の新しい法律でも、まあ、ええよ、古いけれども、いいよというものを選択するのか。20年、30年先を見て、そういうプラスチック新法に沿った施設を造るのか、それは、私は自分の町に造るべきだとも思っております。

これらについて、先ほどの前者議員も違う方面から言っておられましたが、私はプラスチック新法をめぐる、プラスチックをめぐるこの環境の中で、それが果たして町民の皆さんの20年、30年後を満たした施設になるのか、本当に疑問です。法律ではクリアされておりますが、地球は許してくれないと思います。町長のお考えをお伺いいたします。

入江康仁議長

尾上町長。

尾上壽一町長

10年、20年のお話をされて、それも分かりますけれども、まず、今のごみがゼロになるんですか、すぐ、あした。そういうことも考えないといけないと思いますよ。10年、20年先に、

またどういった焼却炉ができるかは分かりませんけれども、今の時点で、24時間炉で環境に優しい処理を進めていくべきだと思いますし、そのプラスチックが、プラスチックがと、それを焼却するのかと。分別によって、それを外したごみを焼却しようとしているわけです。もちろんこれが前者議員も言いました、草木の部分もございます。いろいろな部分もございます。それは、あしたの日から、すぐなくなるものでもございません。だから、今の現時点で最新の施設、24時間炉、それもごみが減っても運営できるように２炉方式、そういったものを進めることによって、今現在の課題を解決しなければいけないということです。10年、20年後、あなたがおっしゃるような時代になって、そういう適切なというか、その時代に沿ったごみの処理があろうかと思いますが、今、出ているものをどう処分するのかという観点からも、物事を見ていただきたいと思います。

入江康仁議長

近澤議員。

11番　近澤チヅル議員

変な質問もありましたけれども、言いません。

まあ、今の新法なんですね、プラスチック。先の新法じゃなくて、現在の少し前の成立した国の方針転換をしているわけですね。

入江康仁議長

近澤議員、時間が来ますので、まとめてください。

11番　近澤チヅル議員

ですから、やはり20年、30年、20年後を見越してプラスチックについては、私たちみんなの問題として、私自身も含めて考えを改めて、プラスチックについて必要な部分もあるけれども、少しでも減らし、そして、分別し、この地球上で、また、紀北町で住み続けられる環境問題として捉えていただき、進めていっていただきたいと思います。

そして、物価高でありますし、皆さんの願い、いっぱい言いましたけれども、１つでも２つでも実現していただきたい。そして、平和を求めて、私の12月議会、質問を終わらせていただきます。

入江康仁議長

これで近澤チヅル議員の質問を終わります。

入江康仁議長

ここで、昼食のため、午後１時まで暫時休憩といたします。

（午前　11時　37分）

奥村仁副議長

休憩前に引き続き、会議を開きます。

（午後　１時　00分）

奥村仁副議長

会議規則第53条の規定による議員として発言を議長が求めていますので、地方自治法第106条第１項の規定に基づき、私が議長の職務を行います。

それでは、12番　入江康仁議員の発言を許します。

入江康仁議員。

12番　入江康仁議員

それでは、議長の許可をいただきまして、令和６年12月議会においての一般質問をいたします。

今回は、通告をいたしました３つの質問をいたします。

１つ目は、海山環境衛生の不法投棄事件のその後について、２つ目は、東紀州環境施設組合のその後について、３つ目は、これがあなたに対しての最後になる赤羽老人ホーム改築の質問でございます。

それでは、１つ目の海山環境衛生の不法投棄事件に対しての質問をさせていただきます。

まず、事件の経過と経緯をお聞かせください。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

それでは、入江議員のご質問にお答えをいたします。

これは、一般廃棄物収集運搬業の許可業者の問題でございまして、令和５年６月29日に許

可業者の役員及び元従業員の２名が、詐欺の容疑により逮捕される事案が発生いたしました。

その後、役員個人は不起訴ということであったものの、元従業員と両罰規定により法人も起訴されておりまして、法人については現在も係争中であると聞いております。

町もそのたび、弁護士や県にも相談しながら、どのように対処すべきか相談させていただきまして、刑が確定するまでは処分を行うべきではないとの見解が示されたため、現在も裁判の行方を見ているところでございます。

紀北町といたしましては、町民のし尿処理を安定的に確保することを最優先に考え、対応していきたいと思います。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

町長今、言われたように、弁護士等にいろいろ相談されているということなんですけれども、その弁護士に対しては、どのような指導を受けておられるんですか。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

先ほど少し申し上げましたが、刑が確定するまで、こういったものについては処分を行うべきではないと、これは弁護士だけではなしに、県のほうからもそのように伺っております。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

いや、私は、その刑の確定とか処分について、今、言っているんじゃないんですよ。弁護士に相談して、どのような指導を受けておるのかということの中で、先ほど町長言われたけれども、この係争中じゃないんですよね。まだ、裁判始まっていません。事業者、裁判に申し込んでおるけれども、11月20日に公判前の整理ということで話合いをして、令和７年１月10日に、これが裁判所の意向が決定します。それから、公判が始まります。そういう過程なんですけれども、それご存じですか。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

そこまでは知りませんでした。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

その中で、町としての許認可権者として、町長はどのような、海山環境衛生に対して聞き取り、このなる前にもやっておると思うんですけれども、どのような聞き取りで、どのような方法でやったかをお聞かせください。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

経緯も少し聞いて、それから、我々はやはり町民の皆さんにご不便をおかけしないようにということなので、こういうことがあったこと自体に対して、我々としても遺憾であるとお話をさせていただいたことがあります。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

業者に行った、その聞き取りとか指導とか、いろいろなことあったと思うんだが、海山の町民の人たちに迷惑とかどうじゃなくてね、この業者に対して行った行為をお聞かせくださいということ。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

私のみならず、担当課も度々聞き取りをしたということでございます。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

その結果、どういうような答えが出たわけですか。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

先ほど申し上げたように、我々としては、こういうことがあってはならないよということでございます。そういう中で起訴されて、我々もその事件を見守ってきたわけですが、起訴されて、今、議員がおっしゃったように整理の弁論と公判ですか、始まるということになろうかと思います。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

そうじゃないでしょう。その前に聞き取りに行った担当課もそうだけれども、あまりきつくは言いたくないけれども、ただ、向こうに聞いたときには、そういうことはやっていないということだったんじゃないんですか。そこをお聞かせください。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

それらは、こういった取調べの中で、どういう表現がされたのか分かりませんが、我々としては従業員がこういうことを行ったということを聞いているのみで、そこから先は、もう裁判、警察のほうに送られて、それから、警察で取調べを受けていたわけですから、我々はその内容について、今の時点でお話しすることはできません。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

それじゃね、町長、これ私、この海山環境衛生の言い分として、どういうことを言っているか、警察の供述の中で、知っていますか。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

私自身は、そういった詳しいところも知りませんし、知っていたとしても、こういう場でお話しすることは、これからの警察、検察の動きで影響があると困りますので、これはもう我々では、この場所においてお話しすることはできません。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

それじゃ、町長、私が言いましょうか。その海山環境衛生からの言い訳ですね。要は、この社員たちが、告発した社員たちが、会社を陥れるためにやった策略だというようなことを供述しているわけですよ。だから、私はこの社員たちが、なぜ、この告発したかという経緯を知っています。だから、私は、今日ここで、この社員たちの正義と告発した経緯を述べてやらなければ、この社員たちが悪になるわけなんですよ。だから、私はあえて、今日この質問に当たらせていただきました。

証拠はいろいろとあります。要は、私はこの社員たちが、自分たちが告発したら、自分たちが罪になる。罪を背負わなければならないということを分かっていて、紀北町民、また、海山区民、紀北町のために、これは大義を持って告発しなければならない事案だということを覚悟して、自分たちが罪になることを覚悟して告発したんですよ。この気持ちは、町長分かりますか。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

私は、それはおかしいと思います。それを証明するために、なぜ、その従業員が流して、違法なことをするんですか。もっとしっかりと訴えて、我々にでも、こういうことですと、それが社会的、また、行政的に悪いものであったら、我々も注意します。ただ、流したことは事実で認めておるわけですよね、きっと、あの方、罪か何かになったんですが、そういうことをして、訴えること自体の方法論が違うと思います。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

ちょっと町長、感覚ちょっとずれてるんじゃないんですか。

（「あなたがずれている」と呼ぶ者あり）

12番　入江康仁議員

それじゃ、僕の間違っているところ指摘してください。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

私はあなたの発言を間違えているとは言っていないです。その告発した人のやった行為がおかしいんじゃないかと言っています。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

この人たちは、この会社の社長に指示を受けてやったわけですよ。これ、何十年って続いていますよ。今だけじゃない。たまたまこの人たちは、あくまでも、こういう紀北町のために、また、町民のためにと思って、もう自分たちが罪をかぶる覚悟で告発したんです。それが、どこが間違っているんですか。そして、起訴された事実はあるんですよ。それはどういうように感じておるんですか。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

そういったことは警察のほうで、検察のほうでしっかりと証明されるべきだと思いまして、私自身が、ここで、こうですという判断をするわけにはいきませんので、起訴されたということは、それなりの事実が認められて起訴されたものではないかと推測しかできません。検察や警察が、どこまで認識して事実をつかまえてやったのか、我々では及ばぬところでございます。

それと、こういう公式の場でずっとやっていたというのはおかしいと思います。私、証言も全く分からないので、そういうことを言っていること自体も知らないんですけれども、基本的に、私の聞いたところでは、その１回の部分しか証明されていないようなお話は聞いた覚えがあります。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

今、町長、公式の場で、何ですか、どういう意味ですか。公式の場で、これ私、言っていることが間違っているというんですか。ちょっとそこのところ。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

私は間違えているとは言わないです。警察の、検察が取調べしている中で、そのような発言をするのは、いかがなものかということです。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

私はね、町長、町長に言っているのは、あなたはこれの許認可権者ですよ。だから、その立場で質問してるんですよ。あなたに関係のないことを質問してるんじゃない。あなたがこれの許認可権者だから、私は質問してるんですよ。その責任はどのように感じていますか、それなら。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

許認可権、確かに私にあります。ですから、裁判等で結果が出たら、しっかりとその対応を行っていく。そういうことです。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

町長、それなら、その中で、この件はもうそういうことで公判が始まりますから、その都度、できたら、あなたも許認可権者としての責任の中で、いろいろな流れは議会、また、議会の議員に報告していただきたいと思います。

その中で、この業者は、あなたの許認可権者としての立場上、あなたが監督しないといけない中で、これ令和４年度、浄化槽点検・清掃請求開示確認状況というのがあります。これあります。これ、今のこれは何、生涯学習課は誰だった、長井君か、これはその前だったな。

（「はい」と呼ぶ者あり）

12番　入江康仁議員

はい、分かった。前の中で、不法請求しとるわけですよ。請求日は３月10日、作業日が21日、完成認定書が３月９日、支払い命令日が３月10日と、これはまた一つの例だけです。これに関して監査請求をやって、この中での、監査請求の中での一応これは報告書が来ています。この管轄はどこになります。監査請求のこれに対しては、どこの管轄になります。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

総務課になると思います。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

それでは、総務課長、これ知っていますね。これの監査請求のどんなものであったかというのを、ちょっと時間的なこともありますので、５ページ、補正事項から７ページの請求人による証拠書類等の前まで、ちょっと読んでいただけますか。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

そういったことは、執行部のほうでは読まないということで今まで進めてきたように思います。議員が読むのであれば、そこを指摘するのであれば読むということで、今まで議長も仕切っていただいたと思います。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

いや、指摘があれば、私はこれ、前も読んでいただいた事例があります。これは別に読まないでということは指定できませんので。ここにあるものを、出したものを読むわけですから、こちらは時間の都合で読まないということですから、だから、向こうから読むのも一つの議事の進行にもなります。そこのところ。

奥村仁副議長

今まで読んでいるときもありましたし、注意して、やめさせたこともあると思うんですけれども、時間によって必要であれば必要な部分だけというところを指定してもらったらというところで、よろしいですか。

尾上町長。

尾上壽一町長

議長、以前ね、読んだのもあります。それで、読んだことによって時間が長くなって、今後、こういったものは議員が読んでいただくという話になって、そこからはないと思います。

だから、今、議員が持っている部分の、こうこう、こう言っているけれども、この観点についてどうなんだというご指摘いただければありがたいなと思います。

奥村仁副議長

入江議員、その主な部分、じゃ。

12番　入江康仁議員

いや、今のね、観点というのは、これを出したものですよ、執行部から。それに対して、これ、今のような観点だけというと分からない部分も、聞いている人は分からない部分出てくるわけですよ。だから、私は言っているわけなんですね。だから……

（「だから、読んでもらえば」と呼ぶ者あり）

12番　入江康仁議員

例えばね、これ明らかに虚偽であると言っていますよっていうことになれば、虚偽で通るんですか、認めるんですか、そういうような質問になりますよ、これ。だから、これを皆さんにも、一般質問は、執行部と僕だけじゃない。聞いている皆さんも分かるようにしなければならないし、まして、町民に対しては放映されとるから、町民も分かるようにやらなければならない。そういう観点から、別にその……

奥村仁副議長

はい、分かりました。では、その法を全部読めとかという部分ではないので、執行部から出ている文章ということで、執行部から出た部分の指摘された部分について、執行部のほうで読んでいただくということでお願いしたいと思います。

尾上町長。

尾上壽一町長

本来、以前決めて、そういうふうな運営をするということで今まで進めてきました。だから、多分持っている資料であれば、全部読めということが通っていくような形になってしまいます、下手すればね。だから、そこのところは、我々も今回ということで理解して、総務課長から読み上げさせます。

奥村仁副議長

総務課長。

水谷法夫総務課長

それでは、朗読をさせていただきます。

紀北町職員措置請求書の補正。

令和５年11月27日に提出した紀北町職員措置請求書について、以下のように補正します。

第１、補正事項、完成認定書の偽造の経緯及び本町に与えた損害について、以下のとおり補正する。

１、さきの請求にて関係執行機関、生涯学習課長は、事業者が清掃を完了した施設と混同し、誤って清掃前に請求書を送付してしまったとの申し出と回答しているが、補正資料１のとおり、本町との同種契約件に、令和５年３月10日に請求書が発出されていることから、本来の手続である紀北町会計事務規則に定められた検査が実施されれば、完成認定後に発出されるはずである他契約と混同することもなく、受注者のいわゆる締め日である請求書発出日が３月10日であるだけであって、業者の完遂に全く関係なく発出された請求書であり、上記受注者の回答については、全く信憑性を欠き、明らかに虚偽である。また、過年度について調査しても、補正資料１同様に、請求書発出日は３月10日であることが明確に裏づけられる。

２、本請求の補正において、補正書附属証拠書類、補正資料２のとおり、関係者から令和５年３月21日に本件施設の清掃は行われなかった旨の陳述がなされており、よって、本件施設については完成認定し得るべき清掃が行われなかったことが明白であり、さらに、令和５年３月９日には本件完成検査を含め、以下のとおり、令和４年度海山体育館トイレ浄化槽保守点検及び清掃業務、令和４年度多目的広場浄化槽保守点検及び清掃業務、令和４年度海山グラウンド浄化槽保守点検及び清掃業務、令和４年度生涯学習センター浄化槽保守点検及び清掃業務、令和４年度木工陶芸工房浄化槽保守点検及び清掃業務、令和４年度海山公民館浄化槽保守点検及び清掃業務、令和４年度引本公民館浄化槽保守点検及び清掃業務の７件の完成検査が行われている。

本請求において、資料４の記載のとおり、監査委員及び請求人に対し、生涯学習課長は通常であれば検査を実施し、完成認定後に請求書を受け取り、支出手続を行うが、清掃が終わっているだろうという考えの下、確認を失念してしまい、完成認定を行ったと回答しているが、同日中に７件の検査を行い、うち清掃業務が未了である海山公民館と生涯学習センターのみの清掃報告書の確認を失念したということは、極めて不自然であり、ましてや上記７件の清掃報告書は海山総合支所保管の同一ファイルにて一括保管されていることから、ファイル内を確認すれば、当然検査には上記２件の清掃報告書は存在するはずはなく、検査業務を適正に実施していれば、同物件の清掃が完了していないことは一目瞭然である。

したがって、生涯学習課長は紀北町会計事務規則に定められた正規の検査業務を行わずに、清掃業務を行っていない生涯学習センターにおける浄化槽清掃業務を検査合格させ、虚偽に

作成した完成認定書を用いて会計管理者を欺き、同契約清掃代金部分の支払い義務がないのにもかかわらず、本町に支払わせ、もって同代金の損害を与えたものであるという内容でございます。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

今、総務課長読まれたとおりの、これ監査請求のあれですよね。これに対しては町長、これはこのような行為は癒着、また、忖度、詐欺行為に当たるような行為だと思いますが、町長の考えはどうですか。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

不適切なそういった行為が行われたということは、監査で監査請求することによって明確になったものだと思っております。また、その監査報告に基づいて、していなかったところを清掃して完了していると聞いております。そういうことから考えますと、不適切な行為を職員が行ったということだと考えております。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

あなたこれ、不適切な行為で終わらせるんですか、これ、このような行為は、不正な請求なんですよ、これ。これから、それなら、今の役場のシステムの中で、他団体の業者が仕事もやっていないのに請求書出したら、皆、支払うんですか、どうですか。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

私はそういうことはお話しした覚えはございません。慣習に基づいて終わっていると思って、そういう行為を行ったんだと思っておりますので、そういった後に、その業務、支払った金額に等しい業務をしていただいたと認識しております。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

町長のあれとは思えませんね、町長。これ請求書が10日ですよ。作業日が21日。その前に請求書が来たときには、その前に完成認定書という、業務を確実にやっているかという担当課が確認して、それで、支払いを命令出すんですよね。これは仕事もしないうちに出しているわけですよ。そういう答弁するから、海山の人たちは、この業者と町長のいろいろな関係を言っています。人たちは、海山環境と町長は選挙母体だからなという、なんだかんだと言っていますよ。その今の答弁そのものがおかしな答弁でないですか。それでは、これ、みんな規約破っていいんですか。これ認定もしてないんですよ、完成の。請求書を出して、払っているんですよ。この行為はどう思います。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

だから、職員の不適切な行為であったということでございます。それと、全協のときもそういうことを言われる、私と海山環境衛生の話されたんですけれども、お話しさせていただきました。何ら選挙母体となっているわけでもないし、役員になっているわけでもございません。そこで結びつけるのはいかがかと私自身は思いますし、基本的には職員が不適切な行為をしたということです。ですから、それに対して、職員に対してきつく指導し、処分した。そういう話でございますので、私が関わって、そういう虚偽のものを出せとか、そういうことをしたわけではございませんので、職員それぞれの責任において、そういう行為が行われてしまった。これはよくないことでございますので、その後もしっかりとそこを改善するように努めているところでございます。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

町長の答弁は、全然方向が違うので、これに対して、いろいろな不適切なというけれども、不適切な行為じゃないんです、これ。大きな地方公務員の違法になる行為ですよ。それで、全協で、このような選挙の関係を言われたとか、そんなような全協はありませんよ。

（「ありましたよ」と呼ぶ者あり）

12番　入江康仁議員

いや、それなら言ってください。議事録ちょっと……

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

ありました。今日、名前出すわけにはいきませんので、欠席議員が、そのようにおっしゃって、私、先ほどと同じような答弁をさせていただきました。

（「欠席議員」と呼ぶ者あり）

尾上壽一町長

申しました。

（「あっ、そう」と呼ぶ者あり）

尾上壽一町長

はい。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

そうですか、また、それなら後で確認。

（「ちょっといいですか、答弁不足」と呼ぶ者あり）

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

正式な議事録のような話し方ではなかったような記憶はありますが、手を挙げてお話ししたので、それが議事録に載っているかどうかは、ちょっと定かではございませんが、明らかにカチンと来たので、覚えています。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

町長、これはあなたの指導の中で、先ほど不適切だどうのというような職員に対してのこともあるけれども、そこまで言っていない。要は、その行為をした、この業者に対して私は質問している。これはもう何十年もずっとやってきて分かり切って、できないことをやっているわけですよ。だから、そこにあなたが結びつけられてもしようがないんですよ。これは確かに、出されれば、あなたとのいろいろなそれがあるから職員も板挟みになって困ったか

も分からない。いやいや、だから、そういうところは笑いごとじゃないよ、あんた。そこはあんた、もう少し職員のことも考えたらなあかんよ、あんた。それを分からないんですか、あんた。それを相手の業者がそれを手玉に持って出してくるわけですから、そこはどうですか。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

私からすれば、無理な結びつけだと思いますね。そして、基本的には、100億円の金を動かしています。そこの中で小さなというか、金額の少ない事務的なものをどういうふうに取り扱っているかって、私、知りません。そのために各担当課や係がいて、それをチェックしていくわけです。今回、この案件にしては、そのチェックがなされてなかった。不適切であったということで、私はその事務方のほうにしっかりと注意もし、そういうことが今後ないようにということで指示させていただいて、その後は適正にされていると思っております。

奥村仁副議長

ちょっと待ってください。ちょっと入江議員に、議場なので、町長に「あんた」というところは、ちょっとよろしくないと思いますので、訂正と今後、注意してください。

入江議員。

12番　入江康仁議員

いやいやまあ、本当に不適切な発言、どうもすみません。

町長、その中で、その業者は、これずっと、これ今年度で、４年度だけじゃないんです。その前にもやってるんです。そのあれを出したら切りがないので、このことはこれで一旦止めます、時間がないんでね。

それで、その次に、この浄化槽の保守点検についてのご連絡という、この文書知っています。見せますから。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

私、存じておりません。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

これは、海山環境衛生から業務内容点検までについて変更はありませんかと、譲渡の文書なんですよね。それで、海山の方々の現金で払っている方々に対して、この文書を配っているような経緯があるんですけれども、そこは把握していますか。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

見ておりませんので、把握もしていません。

（「ちょっとこれ見てもらっていいですか」と呼ぶ者あり）

奥村仁副議長

どうぞ。

（「議長、動議、ちょっとここで休憩して、ちょっと……」と呼ぶ者あり）

奥村仁副議長

整理。

（「はい」と呼ぶ者あり）

奥村仁副議長

ちょっと見てもらう間ね。

動議に応えます。今ちょっと、動議諮らなあかんね。

賛成する方、議員。

（挙　手あり）

奥村仁副議長

では、動議成立なので、ちょっと中身見てもらう間、休憩を取りたいと思いますので、1時40分まで休憩とします。

（午後　1時　34分）

奥村仁副議長

それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　1時　40分）

奥村仁副議長

答弁。

尾上町長。

尾上壽一町長

今、浄化槽の保守点検についてご連絡という文書を読ませていただきました。それで、まず、この浄化槽の保守点検ということのご説明からさせていただきます。

浄化槽の保守点検、この許可、許認可というのは、三重県への登録になります。そういうことでございますので、町で、この業者ですよとか、そういうことはできないことになっておりますので、保守点検の業務を移管するのであれば、利用者に納得していただいて、うちが保守点検するよというお話をしていただかなければいけないと思います。そういうところを読ませていただきまして、不適切な言葉というか、「譲渡することになりました」と、これは私、今、読ませていただいて、勝手に譲渡するものではないというものだと、譲渡するとかいうようなものではないと感じました。

それと、もう一つ、これは了承できない場合、つまり、そういった情報とか取って駄目だよというようなときに、やはり連絡くださいというような文面も書いてあります。ただ、「譲渡」という言葉は、私が読んでも少し不適切だと思います。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

この許認可のあれは、町長、三重県だということは十分認識しています。その三重県の中での紀北町は関係ないと、私は言いたいんですけれども、要は、これ点検業務の後に収集業務も始まるんですね。それが、なぜ今、海山環境がそのようなことをしないといけないのかと。そこを、私、問いたいわけですよ。あなたは許可権者として、何でこんなことまでするんだと、今、そこはあなたに知ってもらわないといけないので、今、私、質問したんだけれども、あなたは許認可権者としてどのように考えますか。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

保守点検については、以前も登録された方もいらっしゃいます。その中で、今、言ったように収集業務を、その収集業務している方たちと円滑に進めていただくのが本来の筋だと思いますので、例えば、ここで保守点検が、このＡ社というものが許認可を県からそういうものをいただいたとしても、別に、そこに収集業務をお願いする必要もないとは思いますが、これで保守点検者がこうで、これが理由でＡだから、理由で収集しないということになれば、町が収集運搬業務を許可与えているので、それは駄目ですよという指導をさせていただきます。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

この中にね、個人情報的なものも絡んでくるというんだけれども、そこはどうですか。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

私自身は、そういったもの、今、文書初めて見ましたので、そういったものがどういう議論が出てきているのか存じておりません。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

それでは、町長、この件に関しては、また公判も始まるわけですから、また次回ということで、一応２つ目の質問に入らせていただきます。

２つ目の質問に入ります。

東紀州広域ごみ処理施設について、まず、この計画に至った経緯ですね。５市町の首長さんたちとの話合いからの始まりで、経緯を教えていただければと思います。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

相当前に遡りますけれども、やはり各市町が、ごみ焼却施設の老朽化がございました。それと、ＲＤＦが終えんするというような話もございました。そういう中で、焼却施設を超えたような、特に今、所在地となっている尾鷲市も一段と老朽化が激しく、不便なところにあ

ります。そういったことが、各５市町がいろいろな課題、問題を抱えておりましたので、そういったことで我々５市町でやっていこうじゃないかというのが、平成20何年の話だったと記憶しております。24年や……

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

いや、町長、歩きながらじゃなくて、いつだったの。その平成24年だったか何。

（「ちょっと待ってください」と呼ぶ者あり）

12番　入江康仁議員

そんなにも前じゃないですよ。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

そうですね。やはり平成24年ぐらいからいろいろと検討を開始しました。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

町長、どうもこの議事録の中には、第２回目は、首長会議いつ頃やられました。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

25年の８月、首長会議を行っております。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

そういう中で、我々に、この組合議会の組合設立に対しての町長からの説明がありましたよね。運営費を認めていただきたいということで、あれはいつだったんですか。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

令和２年の11月20日頃でしょうかね。それまでにも全員協議会をやっております。この記録を見る限りでは、平成30年２月16日、第１回全員協議会って書いてあるので、その頃から議会の皆さんに、こういうお話あるよということをお話しさせてもらったんじゃないかと思っております。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

30年、まあまあ、その30年はいいといたしまして、町長、その首長会議の中で、熊野の市長は、これは早く議会に知らせて理解を得なければならないということも発言もなされておるんですよね。それがなぜ、このように遅かったんですか、それなら。５年もかかって、30年でしょう。

（「その30年の話、言ってるのかな」と呼ぶ者あり）

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

お話は24年ぐらいからずっと出ていました。場所についても、いろいろとこの５市町の中で話は出ておりました。しかし、それがテーブルに乗せるような条件、考え方には一切至らなかったので、我々としては全員協議会で示せるようになったときに示したのが、その５市町による広域のごみ処理をやろうじゃないかというのを示したのだと思っております。もう５年も６年も前のことなので、記憶は定かではございません。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

そういう中で、５市町の組合施設に対して運営費を認めていただきたいということで、そのときに、いつでも脱会できるのかという、そのときにもこの建設費も何も、まだ決まってなかったから、そういうような意見も出たと思いますが、町長、どう思っています。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

いつでも脱会できるというのは、議員のほうからお話が出たように思います。そういうこ

とです。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

脱会できるかとは僕が言ったんですよ。そのときに町長は、できますと答えているんだけれども、そこはどっちですか。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

脱会できるという話はあって、脱会しようと思ったらできます。できる方法論はあります。けれども、私自体は脱会しないですよという話も、どの全協だったか覚えてないんですけれども、しっかりとさせていただきました。脱会する手段はあります。しかし、脱会はしないとお答えさせていただいたと思います。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

それではね、町長、最初、町長がいろいろな説明を受けた中から、いろいろな具体的な建設費とかいろいろなものが出てきて、そのごみ量も最初71ｔから64ｔ、そして59ｔと、都度、都度いろいろな意見の中で減らしてきたわけですね。そして、大体建設費は１ｔに対して１億円の見積りやっていた。そういう中において、もうこれ計画がずさんなんですよ。

そして、建設費にしたって100億9,300万円、建設事業費がね。そして、運営業務委託料が103億1,200万円ですね。そのときに建設事業費より運営業務委託料が高いのは何でだというようなことを指摘したら、すぐに変わっていくわけですね。ここにも、これ全員協議会の８月23日の資料なんですけれども、もう10億7,000万円、ポンと建設費のほうへ向いて上げて、運営事業費を10億7,200万円減らしておるわけですよ。これ、こんな計画はありませんよ、100億円から200億円の全体事業の中で。それは、なぜかというと、工事の請負業者と、それで運営業務委託の会社は100％出資の子会社なんですよ。これ１つなんですよ。数字なんてどうでもできるんです。そして、まして200億円から超える入札に１社というのも、これは不透明であります。おかしいです。そこはやはり町長としても、もっとその首長会議のときには指摘しなかったのかどうか、ちょっとお聞きします。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

これですね、令和６年１月17日、この日に全協を行って、そういった部分も説明させていただきました。59ｔに、また変わった理由もお答えをさせていただきましたので、そこの部分は今までと一緒でございます。前者議員にもお答えをさせていただきました。

それと、数字が総額の部分で予定価格を上げておりますので、その総額につきましては、我々といたしましては、業者がどういう配分で金額を割り振ったかは分かりませんので、業者がそのまま入札されたということなので、１者でも、紀北町も今、１者入札も多いです。これが不適切とは考えておりません。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

その業者の割り振りでというのは、工事事業費は事業費でしょう。業務委託料は委託料でしょう。それを業者が１つだから、割り振りはどうでもできるんだって、その答弁はないですよ、町長。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

我々の議会の数字の出し方もそうですよね。基本的には100億円と決めれば、その中で紀北町としての設計積算が100億円です。これが予定価格になります。そして、業者が、この部分で30億円かけました、この部分50億円、そういうどういう積算したかは、我々はそこまでタッチしない。これが普通だと思います。むしろタッチしたら官製談合になるのではないかと思いますので、それは業者の方が適正にできるであろうという数字を計算して、積算して入札に及んだものと思っております。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

それじゃ、町長、工事費の見積りと業務委託としての見積りは全然違うものだと思いますよ。これ、それなら、１つの会社が、100％子会社が請けとる。これも不自然です。しかし、

この業務の請負業者が違っていたらどうですか。この建築事業費を　　れるんですか。こんな入札方法ってあるんですか。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

それがＤＢＯ方式というものであり、今、新しく設置されているこういうごみ処理場は、ほとんどがＤＢＯ方式、今のような方式で算出されております、設計されております。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

その中でね、町長、この計画には無理があります、はっきり言って。もう変更、変更です。それで、町長は前者議員のあれで、20年の計画って言っているけれども、20年の中にはいろいろな物価も上がったり、どうのこうのと言っていたけれども、そういうような中で20年も計画すること自体がおかしいんじゃないですか。それで、紀北町には、別にこれに参加しなくても、今、ＲＤＦがあります。５、６億円かければ20年使える。同じ分だけ使えるんですよ、年数は。それで、もうこれからは実際言って、１つは、今、ペレットですね、ＲＤＦができるペレットを今、太平洋セメントと中央開発に出して処理している。これが約7,000万円です。

こういうものも、先ほど町長、一般廃棄物の紀北町のこれ廃棄物場は宝ですよ。これ、あなた閉鎖したけれども、閉鎖してもしなくても再開できる。

（「最終処分」と呼ぶ者あり）

12番　入江康仁議員

最終処分場ね、一般廃棄物、あそこへ向いて捨てたらいいんですよ、もう、これからは。こんなところに7,000万円もあれしてくる。それで、長島の１基止めたら6,000万円のメンテナンス料も浮いてくる。そういうことのいろいろ考えて、いろいろな中でのこれからの緊縮財政の中で、財政を豊かに持っていかないといけないと思うんですけれども、どうですか。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

財政が厳しいときだからこそ、財政を考えるべきだと思っております。今、１年間の紀北

町の処理費用約４億円かかります。前者の議員のときは４億5,000万円ぐらいまでかかるとなっています。それで積算して、海山リサイクル１つに絞っても、赤字でもこれ経営していると思うんですけれども、２億5,000万円から3,000万円かかります。それで、広域になると１億3,700万円だったかな、１億5,000万円かかります。財政厳しいときだから、４億円からかかるやつを１億5,000万円の処理をするというのは、かなり普通の考え方だと思っております。

それから、ＲＤＦの話、出たので、私も少しお話しさせていただきますけれども、ＲＤＦに関しましては、今、例えば、４億円の１億5,000万円となる。それと、２億5,000万円の差があります。これ20年そのまま差が、違うか、４億円の２億5,000万円、20年延ばすとすると50億円ですよね、２億5,000万円の20年。合っとる。

（「はい」と呼ぶ者あり）

尾上壽一町長

50億円、20年の間に違ってきます、お金。50億円というのは、みんな単費です。どこからも補助金は入らないお金で処理していかなければいけないので、それが、まず１億5,000万円で処理されるものが、なぜ４億円も私は出さないといけないのかと、まず思います。

それと、ＲＤＦの話が出て、それで、金額が出て、最終処分場の話、出ましたよね。最終処分場、今、紀北町の最終処分場は、もう容量がいっぱいなんです。だから、今、当初予算なんかにも入っていますが、一定の量を排出しながら、今、近くで出たその最終処分場行きのやつを入れています。そして、そこから入った分だけ三重中央とか、そこらへ持っていってます。そういうこともあるので、もう許容量いっぱいなんです。それと同等のものを新たに造ろうとすると、あるところが最近造ったんですが、29億円かかっております。それをまたプラスして、お金も要ってまいります。そういうことから考えると、ＲＤＦ。

それと、ＲＤＦの処理施設の金額をおっしゃっていましたよね。太平洋セメント１万円です。三重中央へ行くと３万2,000円だったかな。

（「はい」と呼ぶ者あり）

尾上壽一町長

３万2,000円になっております。そうすると、太平洋セメントへ行ったときは１万円ですけれども、三重中央へ行って、結局、ごみの循環ではなしに埋立てなんですよね。それを利用していないんです。それで３万2,000円という高額な金額で埋め立ててもらっているんです。

ですから、私ははっきり今、言われた経済からすれば、明らかに今の新しい、いろいろなご意見あるのは分かっています。財政という面からしたら、この広域ごみ処理施設を手放す気は、私、一切ありません。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

今の最終処分場は満タン。満タンじゃないですよ。あれはまだまだ大きく活用できます。これは、私は地元だから、一番よく分かっているんです。あなたが、それを止めたんじゃないですか。

それと、もう一つね、それで、今の太平洋セメントだ、中央開発だって、３万5,000円かかる、１万円かかるって、そんな説明は必要ないんですよ。予算に7,000万円と上がっているのはそれじゃないんですか。

（「そうです」と呼ぶ者あり）

12番　入江康仁議員

そうでしょう。一々そんなこと言わなくても分かっていますよ、そんなことは。何を大げさなことを言っているんですか。

そして、４億円が１億5,000万円でできるということの根拠を示してください。何ができるはずがあるの。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

できるはずがあるということより、できない理由を、まず言ってほしいと思いますけれども、私は、ＲＤＦ自体が現実かかっているのをt数割したわけなんですよね。それで、年間４億円かかっているんですよ。それで、広域ごみのは積算した金額が今、言ったように１億3,700万円なんですよ。これはもう計算されて出てきておりますので、そういうことからすると、私はいろいろコンサルや、そういったものも全部積算した上での数字を出させていただいていると思っております。

それともう一つ、何か言わなかったかな。

（「最終処分場」と呼ぶ者あり）

尾上壽一町長

最終処分場、塀をして、どんどん積めればできる。そういうものではございません。あれは三重県の許可とか、そういう最終処分場の規格、そういうものをきっちり適法にやろうとすると、それぐらいかかります。ただ、ここのをすると、上を上げれば、そこからみんなどれだけでも積めるというものではありませんので、もちろんそこから出る排水とか、そういったものを浄化しなければいけないので、そういう施設も要ります。そういうものを完全に廃掃法等の基準に合ったものをつくろうとすると、今、申し上げたように、うちと同等規模でも30億円近い金がかかるということです。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

30億円って大きな金額を言いましたけれども、紀北町はそんなにもかかってつくってないですよ。それだけ言って、後でまたやります。

それで、これ時間がないので、これに対しては、私は町長に脱会声明出してほしいということを最終的には言いたかったんですよ。つまり、これには賛成できないです、はっきり言って。

その中で、この数字どおり、あなたの言われた数字どおりに行くんだったらいいけれども、数字どおりに行かなかった、つまり数字、金額です。なったときは、あなたは紀北町民にどのようなあれをしますか。賠償責任を負うぐらいの覚悟がありますか。これは大きな負担になりますから。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

金額につきましては、今でも結構上がっています。基本計画から比べると相当、ほかの建設費だけ取っても、ほかの小学校、中学校を造ろうとするのでも40億円かかっていたのが、今、不落です。そういうことからすると、これが60億円とか70億円に、よその市町ですよ。よその市町でなっているのが現実です。ですから、そういった意味では建設費はその物価高、資材高、人の労務単価、そういったものも計算してやっていかなければいけないので、動くのは動くと思います。これは、私、最初のほうの全協でもお話はさせていただいております。

それと、ここからは議長、ちょっと気に入らないかもわかりませんけれども、団体意思の問題ですね。議会で議論してきました。それと、そこは、やはりしっかりと意識していただ

いて、議会として賛否を採って決定したものについては、議員として、たとえ反対するものであっても、その団体意思に従わなければいけない。これが議員必携にも書いてありますので、できればそういう行動を取っていただきたいと思います。

それと、もう一点が、議長の職責にあります。議長の職責、私も議長やったことありますけれども、そのときに読んだ本は、公平公正を保たなければ議長はいけない。そして、国会においても、たしか議長、副議長は党籍を離れた上で公平な立場で運営する。そういうことから考えると、議長も反対ののろし、拳を上げるのではなしに、やはり公平にお話をしていただければありがたいかなと思います。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

私は今、議長じゃないですよ。一般議員として質問している。

（「いや、籍は議長なんです」と呼ぶ者あり）

12番　入江康仁議員

まあ、理屈は理屈で、その中でね、町長、この建設に関しては、私はこれから自分自身のいろいろな考えの下で行動させていただき、また、賛同してくれる議員も募っていきたいと思っております。これは、つまりもう紀北町の将来を担う若い者たちに負の遺産を継がせるわけにはいかない、そういう強い気持ちでやっていきます。

それでは、３つ目に、先ほど最初に、最後の質問になると、あなたに対して、３つ目の私の政治生命をかけての公約である赤羽老人ホームの改築問題です。

この赤羽老人ホームの改築に対して、紀北町合併後の初めての町議会選挙において、私は街頭演説で、この赤羽老人ホームの改築については、私は紀北町が合併して初めての町議会選挙に当選させていただいたときから、私は戦後の混乱期に、この紀北町の復興発展にご尽力をいただいた方々に、人生の終えんは赤羽老人ホームの新しい施設の中で暮らしていただき、紀北町に住んでいてよかったと思われる赤羽老人ホームの改築を訴えてまいりました。

そして、もうこのときは戦後約60年でした。しかし、今はもう戦後80年を迎えようとしています。もう時間がありません。

それで、これは町長に対しての一般質問ですね、令和３年６月議会、９月議会において、町長から、先ほど申し上げたように、養護老人ホームについては公的な要素が大変強いものでございますので、私は今後、養護老人ホームにつきましては改築を視野に検討していくと

いうふうに答えていただいております。

それに対して、町長、どのように検討していただいたか、ちょっとお聞かせください。

奥村仁副議長

ちょっと待ってください。

そのさっきのところで、運営費のところで、２億5,000万円から3,000万円って答弁された分があったと思うんですけれども。

（「３億円」と呼ぶ者あり）

奥村仁副議長

それ訂正していただきたいと思います。

（「訂正してから答弁します」と呼ぶ者あり）

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

数字の読み間違いでございます。２億5,000万円から３億円というのが正解でございました。今議会申し訳ございません。億を抜かしたりするのが大変多くなっておりますので、反省をいたします。

それから、赤羽の老人ホームについては、議員がたびたびご質問もしていただいています。そして、議会選挙のときも、そういう公約をお話ししております。そういう話がございました。だから、私もそういうことを踏まえた上で、先ほど申し上げたように、ひとり暮らしではなかなか難しい人たちに入っていただく養護老人ホーム、これについては検討していかなければいけないということで、その最初の頃は検討を始めます。そして、その後は、いつというのはちょっと置いといてください、ちょっと記憶ないので。その後は、養護老人ホーム「を」か、「の」、建て替えをという、この助詞の使い方が、私は記憶ないんですけれども、建て替えに向けて考えていくよということで終わっております。そして……

（「何、答弁を今、言った」と呼ぶ者あり）

尾上壽一町長

その当時、そういうふうに発言をさせていただいております。取りあえずは、以上です。

（「いやいや答弁不足、どのような検討をしてくれたかという」と呼ぶ者あり）

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

これは、今の高齢者人口、人口減少がございます。そういう中で、どういうふうな高齢者人口が下がってきているのか。それで、ベッド数、これ特養も併せて検討しているんですけれども、数字はね。そういったものをしていまして、まず言いました、高齢者の動向、ニーズ。今、ニーズでいえば定数にはとんでも足らない人数だけしか養護には入っておりません。そういった他の特定施設、そういったものも含めてやっておりますし、利用者の状況も踏まえた上で施設の規模、そして、建て替えるとなると用地のこともございます。そういう課題の洗い出しでございます。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

今、町長、先ほど答弁でいただいた、この改築を視野に検討していくというふうでということを言ったんですか。というふうで今後させていただきたいと思いますと。それ、どういう意味ですか。もう一回ちょっと答弁。この部分を言ったんです。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

この当時、最初の頃、入江議員も言っていた赤羽老人ホームという表現を使っていたわけなんですよね。それで、私は赤羽老人ホームの一くくりではなしに、そこに入っている養護と特養のことを考えていかなければいけないということで話をしてきました、最初の頃。それから、いろいろ議員からもご指摘いただいて、町民の皆さんの意見も聞いて、養護老人ホームの建て替えを視野に入れて検討していきますという、そこの部分が、「の」とか「を」とかいう言葉で恐らく表現していると思います。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

だから、その検討した中での建築予定地とか、そんなのを検討していただいたんですか。

奥村仁副議長

尾上町長。

尾上壽一町長

頭の中ではありますが、今現時点で、議会にお示ししたりいろいろとできる状態ではございません。まず、基本的に私が養護老人ホームの赤羽寮について建て替えの検討を始めますとお話しさせていただいたのは、令和６年の３月の施政方針です。これは、もうしっかり記憶していますので、ですから、令和６年です、今はね。だから、そういうことを検討に入れてやっているということなので、そこはそういう進捗状況です。

奥村仁副議長

入江議員。

12番　入江康仁議員

あのね、町長、もうそういうような今もう時間が先ほど言ったように、もうないんです、はっきり言ってね。それで、今の町長の言われとる中で、これ老人ホームに対しての改修に対しての予算のこれもすみません、20年間ね、大体平均、本当にもう何百万円です、皆。だから、町長、あなたのこの老人ホームに対しての関心、これは割と紀伊長島地区の皆さんの悲願でもあり、また、海山の方々も賛同していくこともたくさんあります。そして、そのたびにいろいろな入所料金のこととか、いろいろな町長は一定否定的な答弁であったけれども、最終的に３年の９月のこの改築を検討するということを私は信用しまして、ずっと見守ってきた。

しかし、今の答弁で、もうその意思がないというのははっかり分かりましたので、要は、今回、この東紀州のごみ処理施設に関してと、そして、この老人ホームに関しては、これは私どものみんなの意見を聞いて、紀伊長島地区の皆さんの悲願を達成できる方々に、今度はやっていただきたいと思いますので、もう町長いいです。もう、これはもう……

（「答弁させてくださいね」と呼ぶ者あり）

12番　入江康仁議員

もういいですよ、もう。その中で、まとめに入ります。

（「議長、答弁を求めていただきたい、一般質問なので」と呼ぶ者あり）

12番　入江康仁議員

答弁要らないというんだ、もうあなたには要らないと言っておるんです。

（「それじゃ、私も答弁」と呼ぶ者あり）

12番　入江康仁議員

ああ、要らない、もうこれで終わるんだから、いいよ。

奥村仁副議長

続けてください。

12番　入江康仁議員

それでは、まとめに入ります。

海山環境衛生の不法投棄事件に関しては、来年１月10日、裁判所の方針が決まり、裁判が始まります。この裁判の経過を議会に報告していただきたいことをお願いいたします。

次に、東紀州広域ごみ処理施設に参加してしまえば、今後20年間の紀北町の財政に悪影響を及ぼすものであり、紀北町町民に対して多大な負担をかける大きな問題であります。また、103万円の問題もあり、この問題が可決されれば、国から交付金が減額される可能性もあります。紀北町の財源を守るためにも、また、紀北町の町民を守るためにも、今は大きな投資をしないで、ある施設は長寿化を図り、また、使える施設は補修をしながらやっていくのが今の現状にあった行政の姿だと思います。負の遺産を、次の時代を担う若い人たちのためにも、決して残すものではないと思います。

亡くなられた前奥山町長は、自分自身の人生の反省を込めた思いでか、合併後、緊縮財政に取り組み、決して大きな投資はしなかった。そして、紀北町に大きな財源を残してくれました。そして、我々も初心に戻って、自分たちの町で出たごみは、自分たちの町で処理していこうというスローガンに立ち戻っていきたいと思っております。

町長には、４期16年間の経験を生かし、この東紀州ごみ処理施設に対しては、このスローガンに立ち戻っていただき、脱会の声明を出していただきたいと思います。

最後の赤羽老人ホームの改築については、戦後80年になろうとしています。入所を希望する人たちももう時間がありません。戦後の紀北町の復興、発展にご尽力をいただいた方々に、人生最後の余生は楽園と思われるような赤羽老人ホームで暮らしていただけるような老人ホームの改築を、私の公約として掲げてきました。もう私も入所者希望の方々と一緒で時間がありません。次は、特別養護、養護を兼ねた赤羽老人ホームの改築をできる方と一緒に、紀北町のために、私の最後の議員活動として終わりたいと思っております。

以上でございます。

以上、これで私の一般質問を、12月議会を終わります。

奥村仁副議長

これで入江康仁議員の質問を終わります。

入江議員の発言が終わりましたので、ここで議長を交代いたします。

奥村仁副議長

議長交代のため、この場で暫時休憩いたします。

（午後　２時　21分）

入江康仁議長

それでは、休憩前に引き続き、会議を開きます。

（午後　２時　21分）

入江康仁議長

以上で通告済みの質問は全て終了いたしました。

入江康仁議長

本日はこれで散会といたします。

どうもご苦労さまでございました。

（午後　２時　21分）

地方自治法第123条第２項の規定により下記に署名する。

令和　７年　３月　14日

紀北町議会議長　　入江康仁

紀北町議会副議長　　奥村　仁

紀北町議会議員　　宮地　忍

紀北町議会議員　　岡村哲雄